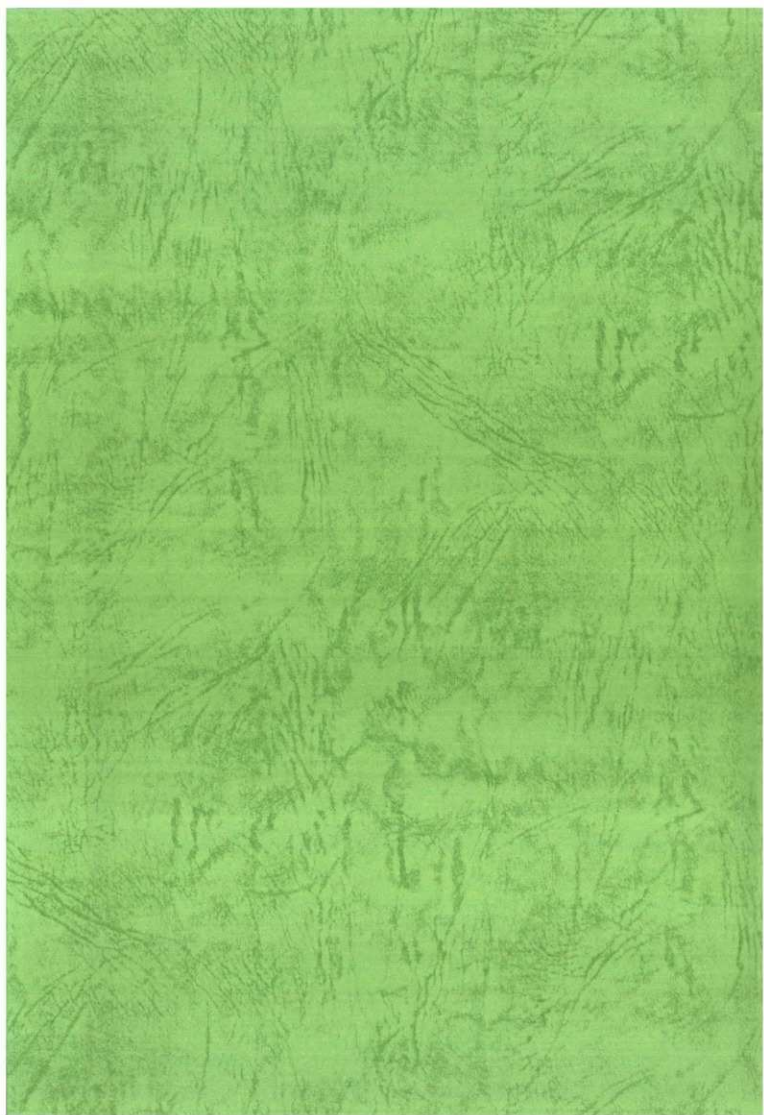


—平成27・28年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2018年12月

福崎町教育委員会



—平成27・28年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2018年12月

福崎町教育委員会

あ い さ つ

埋蔵文化財は、かつてその場所にどのような生活があったのかを知るとともに、今の私たちの生活を考えるうえでかけがえのない町民共有の財産です。

福崎町では、個人住宅や店舗等の開発に伴う確認調査を中心に埋蔵文化財調査を実施しており、これまで知られていなかった町の歴史の一端が明らかになってきています。

このたび、平成27・28年度の発掘調査の結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。地域の歴史を知る資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

平成30年12月

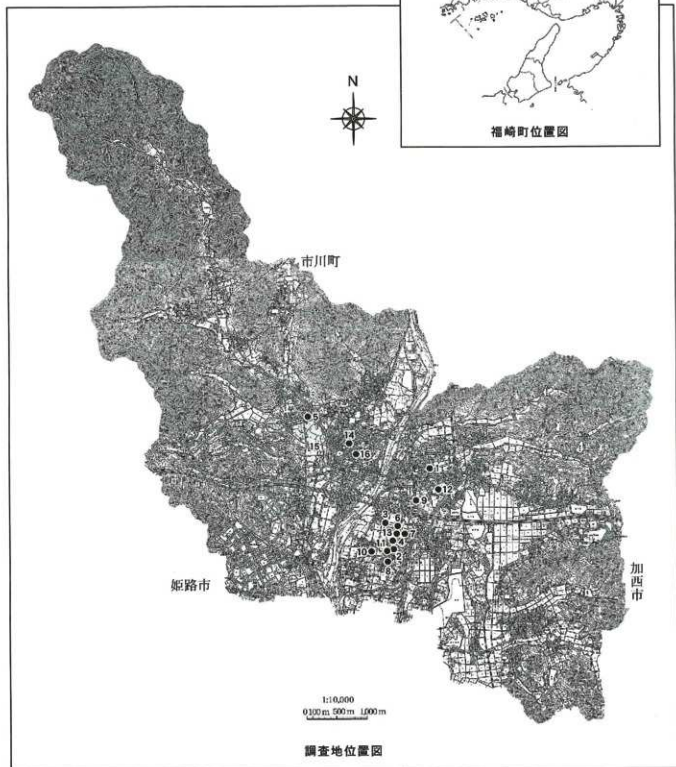
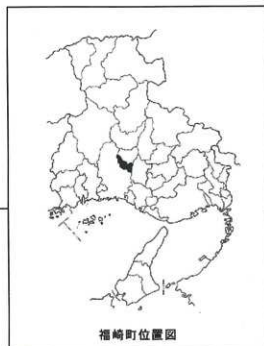
福崎町教育委員会
教育長 高奇十郎

例 言

1. 本書は、平成27・28年度に行った試掘、確認調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は、福崎町教育委員会を主体とし、播磨町教育委員会の渡辺昇氏(平成27・28年度)から指導、助言を賜った。
3. 経費は、国庫補助金(総事業費の1/2)並びに県補助金(総事業費の1/4)を使用している。
4. 各年度の調査体制は以下のとおりである。

平成27年度	平成28年度	平成30年度	
調査・管理事務局			整理作業・報告書担当
教育長 高奇十郎	教育長 高奇十郎	教育長 高奇十郎	社会教育課主査 樋口 碧
社会教育課長 山下健介	社会教育課長 大塚久典	社会教育課長 大塚久典	整理作業員 渡辺 昇
		社会教育課副課長 中塚喜博	整理作業員 梶 智美
社会教育副課長 福永知美	社会教育副課長 福永知美	社会教育課主査 長谷川幸子	整理作業員 福永明子
社会教育課主査 玉田誠司	社会教育課主査 玉田誠司	社会教育課主査 樋口 碧	
社会教育課主事 樋口 碧	社会教育課主事 樋口 碧		

5. 本書に使用した方位は、基本的に磁北を示している。
6. 本書に掲載した図のうち、遺跡位置図及び坪位置図は福崎町発行の都市計画図を編集したものである。
7. 本書の執筆は樋口、渡辺が行い、編集は樋口が行った。
8. 出土遺物の整理は梶、福永が行い、写真撮影は樋口、渡辺が行った。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は福崎町教育委員会にて保管している。
10. 調査及び整理作業には、数多くの方々や機関にご指導、ご助言をいただいた。感謝申し上げます。



平成27年度 埋蔵文化財調査一覧

	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
1	北野散布地 (第3次)	福岡町西田原字西広岡	確認	7月5日 (1日)	—	なし	陶磁器	3か所 12㎡
2	南田原条里遺構 (第26次)	福岡町南田原字東山	確認	8月6日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡
3	南田原条里遺構 (第27次)	福岡町南田原	確認	9月14日 (1日)	中世	ビット	土師器	1か所 7㎡
4	南田原条里遺構 (第28次)	福岡町南田原字川田	確認	1月22日 (1日)	—	なし	なし	1か所 2㎡
5	観音堂遺跡 (第1次)	福岡町高岡字桜元	確認	3月8日 (1日)	中世	旧河道	なし	2か所 12.5㎡
6	南田原条里遺構 (第29次)	福岡町南田原字大塚	確認	3月14日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡

平成28年度 埋蔵文化財調査一覧

	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
7	南田原条里遺構 (第30次)	福岡町南田原字 ハツグロ	確認	10月3日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡
8	南田原条里遺構 (第31次)	福岡町南田原字中島	確認	10月14日 (1日)	中世	ビット	土師器 須恵器	1か所 9.2㎡
9	西田原辻ノ前 遺跡 (第3次)	福岡町西田原字辻ノ前	確認	12月12日 (1日)	中世	なし	土師器 須恵器	3か所 12㎡
10	南田原条里遺構 (第32次)	福岡町南田原字前田	確認	1月23日 (1日)	—	焼土層	なし	1か所 4㎡
11	南田原条里遺構 (第33次)	福岡町南田原	確認	2月24日 (1日)	—	なし	土師器	1か所 4㎡
12	西田原上野田 遺跡 (第2次)	福岡町西田原字上野田	確認	3月1日 (1日)	中世	土坑	土師器 須恵器	1か所 4㎡
13	南田原条里遺構 (第34次)	福岡町南田原字 ハツグロ	確認	3月15日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4㎡
14	福岡駅周辺整備	福岡町福田	試掘	6月28日 9月14日 11月25日 (8日)	中世	土坑 ビット	須恵器	10か所 40㎡
15	高岡・福田地区 区画整備	福岡町高岡・福田	試掘 確認	9月19日 ～ 3月1日 (17日)	弥生 ～ 中世	土坑 溝 ビット	土師器 須恵器	171か所 684㎡
16	中溝遺跡 (第1次)	福岡町福田字中溝	本発掘	12月 19・20日 (2日)	中世	廻立柱建物	土師器 須恵器	34㎡

目 次

あいさつ、例言

福岡町全図

埋蔵文化財調査一覧（平成27年度・平成28年度）

平成27年度

1	北野散布地（第3次）	1
2	南田原条里遺構（第26次）	4
3	南田原条里遺構（第27次）	7
4	南田原条里遺構（第28次）	10
5	観音堂遺跡（第1次）	12
6	南田原条里遺構（第29次）	15

平成28年度

7	南田原条里遺構（第30次）	17
8	南田原条里遺構（第31次）	19
9	西田原辻ノ前遺跡（第3次）	22
10	南田原条里遺構（第32次）	25
11	南田原条里遺構（第33次）	27
12	西田原上野田遺跡（第2次）	29
13	南田原条里遺構（第34次）	32
14	福岡駅周辺整備に伴う試掘調査	34
15	高岡・福田地区ほ場整備事業に係る試掘、確認調査	41

平成27年度

1. 北野散布地 (第3次)

調査地区 神崎郡福崎町西田原字西広岡998番1他

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成27年7月5日(日)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

宅地造成工事が、文化財保護法第93条の届出なしに周知の埋蔵文化財包蔵地である北野散布地内で着工されていた。すぐに工事を止め、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。宅地造成工事範囲の大半で表土の鋤取りが実施されており、一部で盛土が実施されていた。2×2mの坪を3か所設けた。掘り下げは宅地造成工事に係る重機(オペレーター込)を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、南には雲津川が流れる低位段丘に位置付けられる。

北野散布地は、弥生時代から近世にかけての遺物が顕著に散布する。北野散布地に近接して北側には弥生時代の散布地である北広岡遺跡がある。東側に近接する大門岡ノ下遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡を展開している。

○坪の概要

坪1

北東側に設定した坪で、2層から成っている。第1層は耕土、第2層は地山である。一部で宅地造成工事に係る表土の鋤取りが行われていた。近代の攪乱があったが、顕著な遺構、遺物ともに確認されなかった。

坪2

中央の西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐シルト質細礫、第4層は褐シルト質細礫である。宅地造成工事に係る表土の鋤取りが行われていたが、遺構、遺物ともに確認されなかった。

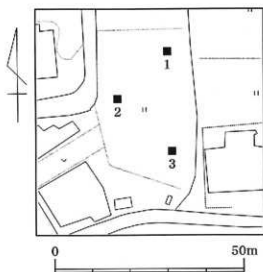
坪3

南東側に設定した坪で、第1層は耕土、第2層は床土、第3層は褐シルト質細礫、第4層は褐シルト質粗砂、第5層は地山である。宅地造成工事に係る表土の鋤取りは行われていなかった。遺物は耕土から陶器片が見つかったが、顕著な遺構は確認されなかった。

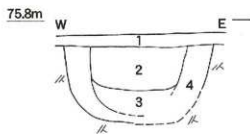
○まとめ

宅地造成工事の範囲では一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である北野散布地に該当しており、表土の鑿取りにおいて、遺跡の破壊が懸念された。

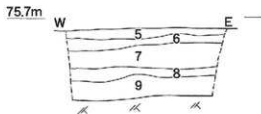
今回の調査の結果、遺構の存在を確認することができなかつたため、宅地造成工事にかかる掘削により遺構が破壊されていないことが明らかになった。したがって、工事に支障がない状況と見え、慎重工事で対応する。



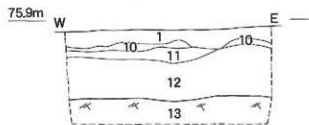
坪配置図



坪 1



坪 2



坪 3

- 1 灰黄緑シルト質粗砂(10YR4/2)(表土)
- 2 暗灰黄シルト質粗砂(2.5Y4/2)(埋品)
- 3 黒シルト質粗砂(N1.5/0)(埋品)
- 4 明褐シルト質粗砂(7.5YR5/8)(埋品)
- 5 灰黄緑シルト質粗砂(10YR4/2)(赤土)
- 6 褐シルト質細礫(7.5YR4/3)(赤土)
- 7 明黄褐色(10YR6/8)土を1~2割含む、マンガン含む
- 8 褐シルト質細礫(10YR4/4)(旧赤土)
- 9 にぶい黄褐シルト質細礫(10YR5/4)(旧赤土)
- 10 明黄緑シルト質粗砂(10YR6/8)の土を含む(赤土)
- 11 褐シルト質細礫(10YR4/4)(旧赤土)
- 12 褐シルト質粗砂(7.5YR4/3)(旧赤土)
- 13 にぶい黄褐礫層(10YR4/3)(地山)

土層図





調査前の状況



作業風景



重機掘削



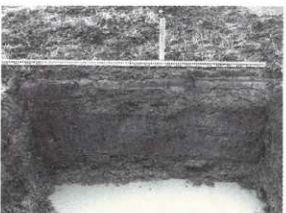
坪1 近代の攪乱（南から）



坪1（南から）



坪2（南から）



坪3（南から）



埋め戻し後の状況

2. 南田原条里遺構 (第26次)

調査地区 神崎郡福岡町南田原字東田2240番3、4
調査主体 福岡町教育委員会
調査担当 樋口 碧
調査期間 平成27年8月6日(木)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発地に2×2mの坪を2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる。南田原条里遺構では今まで25回の調査が行われている。

調査地の南西で実施した第10次調査では、弥生時代中期前半の福岡町で最古の弥生集落の存在が確認されている。環濠を伴う集落であり、弥生時代中期から後期にかけての環濠集落である南田原長目遺跡とのかかわりも注目されるものである。

○坪の概要

坪1

西側に設定した坪で、3層から成っている。第1層は造成土、第2層は灰黄褐シルト質粗砂、第3層はマンガン層、第4層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

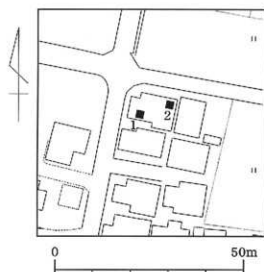
坪2

東側に設定した坪で、第1層は造成土、第2層は灰黄褐シルト質粗砂(旧耕土)、第3層は黄褐シルト(床土)、第4層は暗褐砂層である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

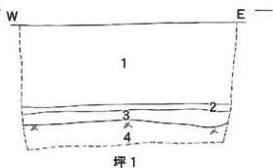
今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。坪1ではマンガン層、坪2では床土の下は市川の氾濫により堆積した砂層であり、包含層は確認できなかった。当該地区では市川の氾濫による堆積層の上に耕土が盛られたものと考えられる。当調査地点周辺は遺構の希薄な部分と思われる。

遺構の存在を確認できなかったことから、慎重工事で対応する。



坪配置図

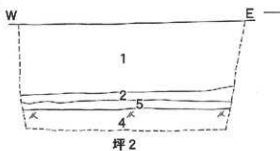
63.8m



坪 1

- 1 造成土
- 2 灰質シルト質粗砂(10YR4/2)(旧耕土)
- 3 暗褐色マンガ層(7.5YR3/4)
- 4 暗褐色砂層(10YR3/4)(地山)
- 5 黄褐色シルト(10YR5/6)(塚土)

63.8m



坪 2



土層図



調査前の状況



調査前の状況



重機掘削



作業風景



坪1 (南から)



坪2 (南から)



埋め戻し状況



埋め戻し状況

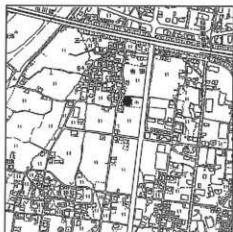
3. 南田原条里遺構 (第27次)

調査地区 神崎郡福岡町南田原2896番地

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 樋口 碧

調査期間 平成27年9月14日(月)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発地に3.5×2mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる。南田原条里遺構は今まで26回の調査が行われている。

調査地の西で実施した第22次、23次調査では、奈良時代の集落の存在を示唆する溝状遺構や柱穴等が見つかっている。

○坪の概要

坪1

5層から成っている。第1層は造成土、第2層は明褐シルト質粗砂、第3層は褐シルト質粗砂、第4層は黒褐シルト質粗砂、第5層は地山である。第4層からごく少量の土師器片が出土した。また、ピットが6基確認された。

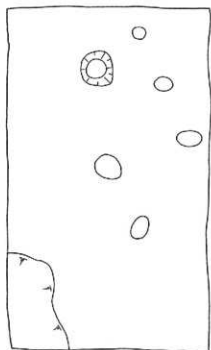
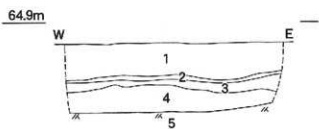
○まとめ

今回の調査では、黒褐色土層からごく少量の土師器片が確認されたが、顕著な遺構は確認されなかった。さらに、ピットが6基確認されたものの、遺物の出土はなく、遺構の性格は不明である。

今回の調査地から遺物を含む堆積層が確認されたことから、周辺に遺構が存在する可能性が十分に考えられるため、今後の調査に期待したい。今回の調査の結果、顕著な遺構や遺物の存在を確認することができなかったため、工事に支障がない状況と言え、慎重工事に対応する。



坪配置図



- 1 にぶい黄褐シルト(10Y4/3) (造成土)
- 2 明褐シルト(7.5YR5/6) (床土)
- 3 褐シルト(10YR4/4) (旧耕土)
- 4 黒褐シルト(10YR2/3) 土器含む
- 5 暗褐色シルト(10YR3/4) (にぶい黄褐色(10YR5/4) 土まだらに含む)



土層図



調査前の状況



重機掘削



作業風景



坪1 (南から)



坪1 遺構検出状況 (南から)



坪1 遺構完掘状況 (南から)



坪1 遺構完掘状況 (東から)



埋め戻し作業

4. 南田原条里遺構 (第28次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田2940番6
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 樋口 碧
調査期間 平成28年1月22日(金)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発地に2×1mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川が作った高位氾濫原と位置付けられる。南田原条里遺構は今まで27回の調査が行われている。

北側へ約10m離れた第18次調査実施箇所からは、弥生時代の土器片を含む包含層が確認され、南側に遺構が存在する可能性が示唆されている。

○坪の概要

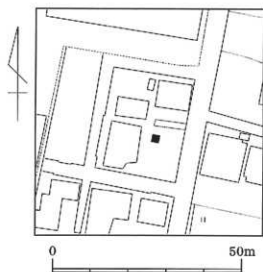
坪1

7層から成っている。第1層は造成土、第2層は褐シルト質細礫、第3層は灰黄褐シルト質粗砂、第4層は黄褐シルト、第5層は赤黒マンガ層、第6層は黒褐シルト質粗砂、第7層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかったが、第18次調査で確認された弥生土器片を含む包含層の続きと考えられる黒褐色土層の堆積が認められた。当該地区の北側へ約10m離れた第18次調査でも遺物包含層が確認されていることから、周辺の遺構の広がりについての示唆を与えるものとなった。

今回の確認調査で設定した坪から、包含層と考えられる土層が確認された。基礎等の掘削が50cmに対し、地表面から包含層までの深さが50cm程度であったため、工事により包含層が破壊される可能性が高い。盛土を10cm程度高くするよう設計変更し協力をいただいた。包含層が破壊されることのないよう慎重工事で対応する。



坪配置図



- 1 造成土
- 2 造成土
- 3 灰質褐シルト質粗砂(10YR4/2)1cm程度の炭を含む(旧耕土)
- 4 黄褐シルト(10YR5/6)マンガン含む
- 5 赤黒マンガン層(2.5YR7/1)
- 6 黒褐シルト質粗砂(10YR2/3)(包含層)
- 7 ぶい黄褐砂層(10YR4/3)砂層(地山)



土層図



調査前の状況



作業風景



坪1 (南から)



埋め戻し後状況

5. 観音堂遺跡（第1次）

調査地点 神崎郡福岡町高岡字桜元1102番3
調査主体 福岡町教育委員会
調査担当 渡辺 昇（播磨町教育委員会）
調査期間 平成28年3月8日（火）



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、観音堂遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、畑地であった。開発地に2.5×2.5mの坪を2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、支流である七種川によって形成された段丘面並びに氾濫原にあたる。観音堂遺跡の中でも旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。今回の調査地南側に流れる大内川も旧河道であろう。北西から砂州状に延びている微高地上に遺跡が立地していたものと思われる。低位氾濫原と考えられる部分は、自然流路の一部と考えられる。

観音堂遺跡では分布調査しか行われておらず、はじめての確認調査である。北側の下々通遺跡では中世の包含層が確認されている。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は高岡唯一の古代寺院である。

○坪の概要

坪1

西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は耕土、第2層は暗灰黄極細砂、第3層は暗灰黄シルト質極細砂、第4層は地山である黄褐極細砂である。

西壁から0.8m付近に第3層を切り込む旧河道が検出された。礫層と砂層が堆積しており、自然地形と思われる。遺構、遺物は確認されなかった。耕土直下である第2層上面は遺構面の可能性が考えられたので面精査を行ったが遺構は検出されなかった。同様に第3層上面も検出したが、旧河道だけであった。

坪2

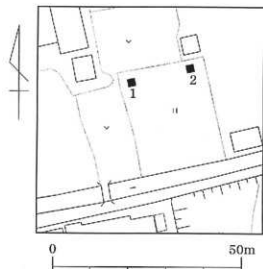
東側に設定した坪である。基本土層は坪1と同じであるが、旧河道内の堆積土が多くなっている。東壁から1mのところ旧河道の東層を確認しただけで、遺構、遺物は確認できなかった。

調査では遺物は出土しなかったが、畑では須恵器、土師器、陶磁器が表面採集されており、氾濫によって堆積したものと思われる。

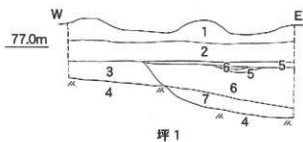
○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物は確認されなかった。遺跡を横断するような南北方向の旧河道が確認されたにとどまる。旧河道は幅2.5mであった。ただ、地表では中世～近代の遺物が採集されており、河川氾濫による堆積と思われる。今回の調査地点は以前に削平されたか河川氾濫の影響を受けたものと思われる。

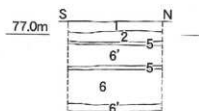
今回の調査の結果、遺構や遺物の存在を確認することができなかったため、工事に支障がない状況と言え、慎重工事で対応する。



坪配置図

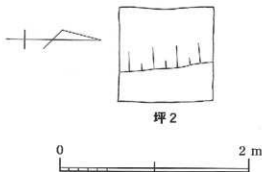


坪1



坪2

- 1 粘土
- 2 暗灰黄褐色砂(2.5Y5/2)
- 3 暗灰黄シルト質褐色砂(2.5Y6/2)
- 4 黄褐色細砂(2.5Y5/4)
- 5 に近い黄シルト(2.5Y6/4)
- 6 黒褐色層(2.5Y3/2) 礫あり(指頭大～拳大)
- 6' 黒褐色層(2.5Y3/2) 礫なし
- 7 暗灰黄シルト質褐色砂(2.5Y5/2)



土層図



調査前の状況



重機掘削



作業風景



作業風景



坪1 旧河道堆積状況(南から)



坪1 第2面精査状況(東から)



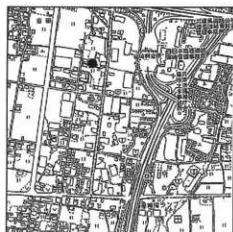
坪2(東から)



埋め戻し作業

6. 南田原条里遺構 (第29次)

調査地点 神崎郡福岡町南田原字大塚2990番地
調査主体 福岡町教育委員会
調査担当 渡辺 昇(福岡町教育委員会)
調査期間 平成28年3月14日(月)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を2か所設けた。坪2設定部分については砕石が敷かれていた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、段丘面並びに市川によって形成された氾濫原にあたる。今回の調査地点は地形分類図から氾濫原にあっている。南田原条里遺構の中でも旧河道が存在するなど複雑な地形を呈しているが、旧河道は南側に存在している。

南田原条里遺構では今まで28回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生前期の土器、石包丁が出土している。

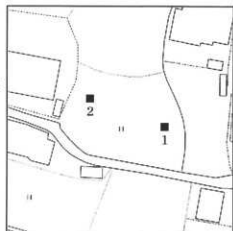
○坪の概要

坪1

東側に設定した坪で、6層から成っている。第1層は耕土、第2層は黄灰シルト質極細砂、第3層は黄灰シルト質極細砂、第4層は灰黄褐シルト質極細砂、第5層は黄灰シルト、第6層は黒褐砂礫層である。遺物は全く出土していないが、第5層が地山と思われる。

坪2

西側に設定した坪である。基本土層は坪1と同じであるが、洪水層が1層加わる。第4層、5層間に黄灰粗砂～小礫が堆積している。坪1同様遺構、遺物は確認されなかった。第5層が坪1よりも厚くなっており、地形的に低くなっている。西側の方が低くなっていたようである。

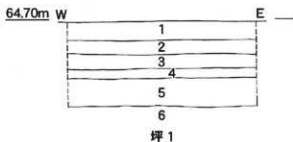


坪配置図

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。現耕土以下の2層も水田土壌である。その下は洪水堆積物で第4層は包含層の可能性のある層位である。

今回の調査の結果、遺構や遺物の存在を確認することができなかったため、工事に支障がない状況と言え、慎重工事で対応する。



- 1 緑土
- 2 灰黄シルト質極細砂 (2.5Y6/2)
- 3 灰黄シルト質極細砂 (2.5Y4/1)
- 4 灰黄褐土～中砂 (10YR4/2)
- 5 灰黄シルト (2.5Y6/1～5/1)
- 6 黒褐色細土 (2.5Y3/1)
- 7 灰黄粗砂・小礫 (2.5Y5/2)



土層図



作業風景



坪1 (南から)



坪2 (東から)



坪2 断ち割り状況 (西から)

平成28年度

7. 南田原条里遺構 (第30次)

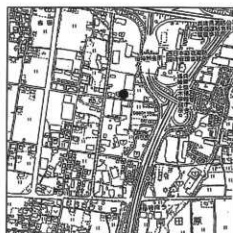
調査地点 神崎郡福崎町南田原字ハツグロ

2964-3、2964-5

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 渡辺 昇 (播磨町教育委員会)

調査期間 平成28年10月3日 (月)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

建物増築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、造成地であった。開発予定地に2×2mの坪を2か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面に位置付けられる。南田原条里遺構では今まで29回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。

第21次調査では、溝状遺構、柱穴が確認され、溝状遺構から弥生時代のミニチュア土器、壺形土器片が出土している。

○坪の概要

坪1

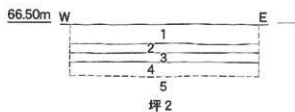
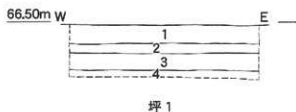
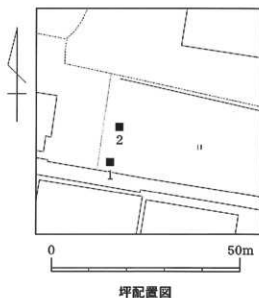
南側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は盛土、第2層はオリーブ灰極細砂（礫含む）、第3層は青灰シルト質極細砂、第4層は黒シルトである。遺物は全く出土しておらず、遺構も確認されていない。盛土は2層に分かれ、上面は細かい砕石で下の盛土内にはコンクリートや瓦などが多く入っている。第4層底面には礫が少し認められ（坪2の黒シルト下層と同じ層）、そこから湧水があったため、その面で作業を終えた。堆積状況から、河道や洪水などの自然堆積層と思われる、明瞭な地山は検出していないが、下層にも遺構は認められないものと思われる。

坪2

北側に設定した坪である。基本土層は坪1と同じであるが、第4層の下に第5層の灰シルトが1層加わる。第4層の黒シルトは2層に分かれ下半は礫を含んでいる。色調もより黒くなっており、坪2設定部分周辺が澁んだ状況であったと思われる。坪1同様遺構、遺物は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。現況の前に建物があつたようで、上部は大きく攪乱されている。その下の土層は洪水堆積物で自然堆積であることを示している。



- 1 盛土
- 2 オリーブ灰燻細砂 (2.5GY6/1)
- 3 青灰シルト質塵細砂 (5BG6/1)
- 4 黒シルト (2.5GY2/1)
- 5 灰シルト (5Y4/1)

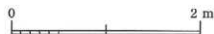


図21 土層図



作業風景



坪 1



坪 2



埋め戻し後の状況

8. 南田原条里遺構（第31次）

調査地点 神崎郡福崎町南田原字中島719-5
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 渡辺 昇（播磨町教育委員会）
調査期間 平成28年10月14日（金）



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2.3×2mの坪を1か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。調査段階で遺構が検出され、性格が不明なことから南へ2m拡張し、2.3×4mの坪に変更した。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

南田原条里遺構では今まで30回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。

○坪の概要

坪1

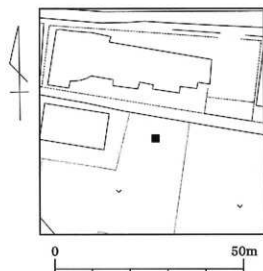
4層から成っている。第1層は耕土、第2層はにぶい黄褐シルト質極細砂、第3層は黒シルト質極細砂、第4層は灰黄褐シルト質極細砂である。その下が地山であるにぶい黄橙極細砂である。第2層である床土直下が遺構面となっている。当初床土直下であることから新しい遺構と判断し、写真撮影を行ってから一段下げた。第3層の黒シルト質極細砂層中で再度精査し、遺構を検出し掘り下げを行った。その結果、7基のピットと杭跡と思われる小ピットを数基検出した。埋土はすべてにぶい黄褐極細砂である。ピットからは須恵器、土師器が出土しており、鎌倉～室町にかけての遺構と思われる。南側に拡張したが、検出したピットは1基だけで杭跡が多く確認された。

一部について下層の調査を行ったが、遺物は出土せず、第4層上面と第5層の地山面では遺構は確認されなかった。

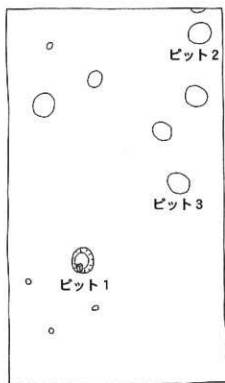
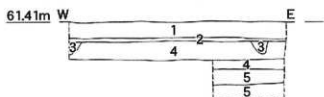
○まとめ

今回の調査では、床土の下で遺構面が確認された。鎌倉～室町にかけての遺構でピットを検出したが、掘立柱建物に並ぶ柱列は確認されなかった。柱痕跡は2基で確認したことから、掘立柱建物が存在した可能性は高い。その下層では遺構、遺物は確認されず、遺構面は1面と思われる。

今回の調査の結果、掘立柱建物の可能性の高いピットを確認した。鎌倉～室町時代の集落跡と思われるが、明瞭な遺構ではない。個人住宅の基礎工事が遺構面まで及ばないことから、慎重工事で対応する。



坪配置図



土層図

- 1 粘土
- 2 にぶい黄褐シルト質礫細砂(10YR4/3)
- 3 黒シルト質礫細砂(10YR2/1)
- 4 灰黄褐シルト質礫細砂(10YR4/2)
- 5 にぶい黄褐礫細砂(10YR6/3)(地山)
- 6 にぶい黄褐礫細砂(10YR5/4)(遺構埋土)



調査前の状況



重機掘削



作業風景



床土ピット検出状況 (南から)



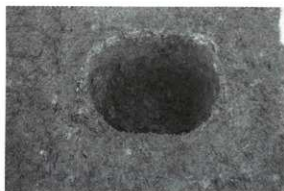
坪1 遺構検出状況 (南から)



坪1 全景 (南から)



ピット1 須恵器出土状況 (南から)



ピット1 遺構完掘状況 (東から)

9. 西田原辻ノ前遺跡（第3次）

調査地点	神崎郡福岡町西田原字辻ノ前1636番地
調査主体	福岡町教育委員会
調査担当	渡辺 昇（福岡町教育委員会）
調査期間	平成28年12月21日（水）



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

宅地造成工事の計画があり、西田原辻ノ前遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を3か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面に位置付けられる。

周知の遺跡としては、南田原条里遺構が南方にあり、西方には中世が中心となる南田原桶川遺跡が、北西には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られている。東方には西田原上野田遺跡、西田原前田遺跡があり、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。これらは流れ込みによるものと考えられ、近くに同時代の遺構の存在を示唆している。

当遺跡からは、平成20年度の第1次調査で、ビットが確認され、中世の須恵器が出土している。平成25年度の第2次調査では、ビットが確認され、7世紀後半の須恵器が出土している。今回の坪は1次調査の南東側、2次調査の東側にあたる。第2次調査地点とは接している。

○坪の概要

坪1

北西側に設定した坪で、4層から成っている。第1層は耕土、第2層はにぶい黄極細砂、第3層は灰黄褐極細砂、第4層は黒褐砂礫。その下が地山である明黄褐シルトである。地山面では第4層の溜まりとなった凹凸があったが、遺構は確認されなかった。第4層上面にはマンガンが堆積しており、礫に混じって須恵器・土師器が出土している。

坪2

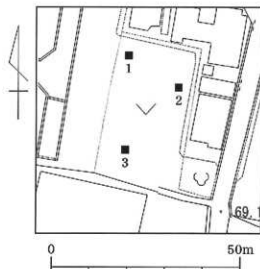
東側に設定した坪である。基本土層は坪1と同じであるが、第3層と第4層の間に層が2層加わっている。上層（図6層）は第2層と同質のにぶい黄極細砂、下層（図7層）は黄灰砂礫である。第7層は洪水堆積物である。その下に第4層相当層が堆積しているが色調はやや淡くなっており、遺物も少なくなっている。どの面でも遺構は確認されなかった。

坪3

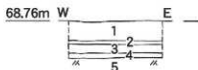
南側に設定した坪で坪2と同じ堆積を示している。第3層を切り込んで円礫を直接詰め込んだ素掘りの溝である暗渠が構築されている。現代に近い時期と思われる。洪水堆積物が厚くなっており、第7層の下に色調の異なる砂礫層（黄褐砂礫）が堆積している。包含層である黒褐砂礫は認められなかった。遺構は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺物は出土したものの明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も坪1以外は確認されなかった。坪1でもビットなどの遺構は確認されなかった。坪2、3は40～60cmの洪水砂礫が堆積しており、遺構は検出されていない。慎重工事で対応する。



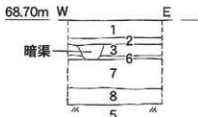
坪配置図



坪1



坪2



坪3

- 1 粘土
- 2 にぶい黄褐色砂(2.5Y6/4)
- 3 灰質褐細砂(10YR4/2)(包含層)
- 4 黒褐色砂礫(10YR3/2)マンガン含む(包含層)
- 5 明黄褐色シルト(10YR6/6)(地山)
- 6 にぶい黄褐色砂(2.5Y6/3)
- 7 黄灰砂礫(2.5Y5/1)
- 8 黄褐色砂礫(2.5Y5/3)



土層図



調査前の状況（南から）



調査前の状況（北から）



重機掘削



作業風景



坪1（南から）



坪2（南から）



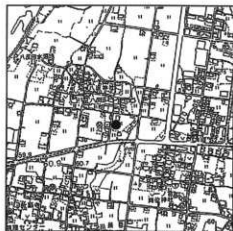
坪3（南から）



埋め戻し後の状況

10. 南田原条里遺構 (第32次)

調査地点 神崎郡福崎町南田原字前田2374番1
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 渡辺 昇 (播磨町教育委員会)
調査期間 平成29年1月23日 (月)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

宅地造成工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

南田原条里遺構では今まで31回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のビットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。

○坪の概要

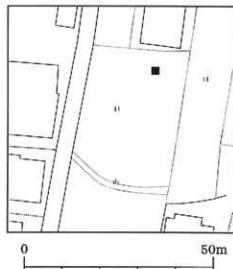
坪1

事業地東側の住宅建設予定部分に設定した坪で、7層から成っている。第1層は耕土、第2層は黒褐中砂、第3層は暗褐中～細砂、第4層は灰黄褐中砂、第5層は褐灰砂礫、第6層は第4層と同じ灰黄褐中砂、第7層は褐中砂で、1.1m下げたが明瞭な地山は検出していない。河川堆積物で旧河道と思われる、安定した面は耕土下だけである。耕土直下で焼土層が確認されたが、遺物は伴っておらず、他の遺構も検出されなかった。

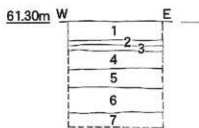
○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。耕土直下で焼土を確認しただけである。遺物も出土していない。

今回の調査の結果、遺構が確認されなかったことから、慎重工事に対応する。



坪配置図



- 1 耕土
- 2 黒褐中砂(7.5YR3/2) (礫含む)
- 3 暗褐中砂(7.5YR3/32)
- 4 灰黄褐中砂(10YR5/2)
- 5 褐灰砂礫(10YR5/1)
- 6 灰黄褐中砂(10YR5/2)
- 7 褐中砂(10YR4/4)



土層図



調査前の状況 (西から)



作業風景



坪1 (西から)



坪1 (西から)



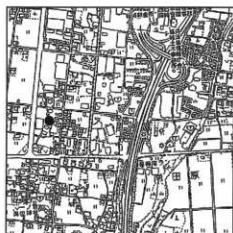
焼土 (東から)



埋め戻し後の状況

1 1. 南田原条里遺構 (第33次)

調査地点 神崎郡福崎町南田原2252-5
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 渡辺 昇 (播磨町教育委員会)
調査期間 平成29年2月24日 (金)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

太陽光発電設備設置の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

南田原条里遺構では今まで32回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。

○坪の概要

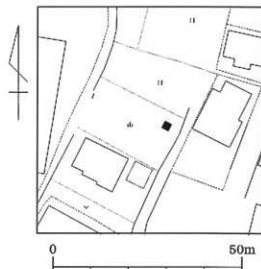
坪1

事業地東側の太陽光発電設備建設予定部分に設定した坪で、5層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐色シルト質極細砂(マンガン含む)、第4層は黒褐色シルト質極細砂、第5層は暗褐色にぶい黄褐色シルト質極細砂である。第4層は水が滞留している部分の腐植土層と思われる、調査地が池や旧河道の溜まりなどと思われる。安定した面は認められない。第3層で土師器小片が出土している。

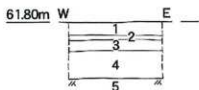
○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。土師器小片が出土しているが2次堆積と思われる。

今回の調査の結果、遺構が確認されなかったことから、慎重工事に対応する。



坪配置図



- 1 粘土
- 2 床土
- 3 にぶい質褐シルト質細砂(10YR5/3)マンガン含む
- 4 黒褐シルト質細砂(5YR3/1)
- 5 暗褐~にぶい質褐シルト質細砂(10YR3/2~4/3)



土層図



調査前の状況（西から）



重機掘削



作業風景



坪1（西から）



坪1（西から）



埋め戻し作業

12. 西田原上野田遺跡（第2次）

調査地点 神崎郡福岡町西田原上野田1814番6
調査主体 福岡町教育委員会
調査担当 渡辺 昇（播磨町教育委員会）
調査期間 平成29年3月1日（水）



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

進入路造成工事の計画があり、西田原上野田遺跡に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、水田であった。開発予定地に2×2mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。

周知の遺跡としては、南西に西田原前田遺跡があり、奈良時代、中世の遺物包含層が確認されている。西には西田原辻ノ前遺跡が存在している。

当該地からは、平成5年度西側商業地で事前調査が行われ、ピットが確認され、中世の須恵器が出土している。当該地から東側に向かって高くなっており、遺跡本体が広がっていると思われる。

○坪の概要

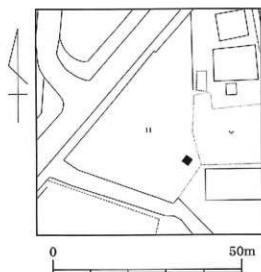
坪1

4層から成っている。第1層は耕土、第2層は床土（にぶい黄極細砂）、第3層は灰黄褐細砂（礫含む）、第4層は黒褐細砂（礫含む）。その下が地山であるにぶい黄橙シルトである。地山面では第4層を埋土とする大きめの土坑（落ち込み）を検出した。最大長0.8mで深さ0.3mを測り、坪外へ続いている。第4層は包含層で中世の須恵器、土師器が出土した。

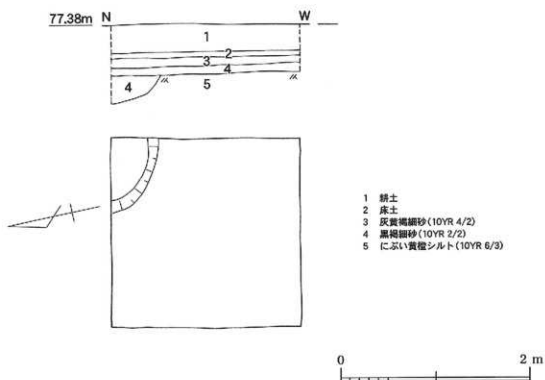
○まとめ

今回の調査で、落ち込みを検出した。遺構として調査したが、底は北側に向かって落ち込んでおり自然地形の可能性が高い。包含層は中世後半の遺物を含み、東側の高い部分に遺跡があるものと思われる。

今回の調査の結果、落ち込み状の遺構を検出したが、自然地形と思われる。明確な遺構ではなく、事業が進入路で盛土施工し、地山面まで0.5mの厚さがあることから、慎重工事に対応する。



坪配置図



土層図



調査前の状況（南西から）



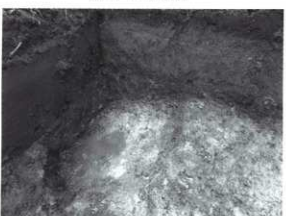
重機掘削



坪1（西から）



坪1 遺構検出状況



坪1 遺構完掘状況



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況



出土遺物

13. 南田原条里遺構 (第34次)

調査地点	神崎郡福岡町南田原字ハツグロ 2984-4、2984-6
調査主体	福岡町教育委員会
調査担当	渡辺 昇 (福岡町教育委員会)
調査期間	平成29年3月15日 (水)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事の計画があり、南田原条里遺構に含まれることから、確認調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区の現状は、宅地であった。開発予定地に2×2mの坪を1か所設けた。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

南田原条里遺構では今まで3回の調査が行われている。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。

○坪の概要

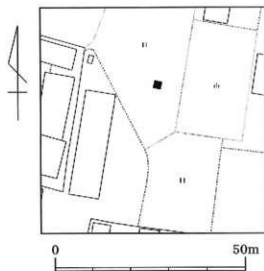
坪1

現況では宅地造成工事が終了しており、擁壁も仕上がっている状態である。南と東は耕作地であり、南側は一段低くなっているが、東側は同じ面であることから、北側の方が地盤が高いと考えて北側に坪を設定した。事業地東側の住宅建設予定部分に設定した坪で、7層から成っている。第1層は盛土、第2層は植物遺体の残る腐植土、第3層は耕土、第4層は褐灰シルトに明黄褐シルトがブロックで入る層、第5層はにぶい黄褐細砂、第6層は黒シルト質極細砂、第7層は灰黄シルト質極細砂で地山である。第6層と地山下層には大きな円礫が含まれている。遺物は出土しておらず、遺構も検出されなかった。

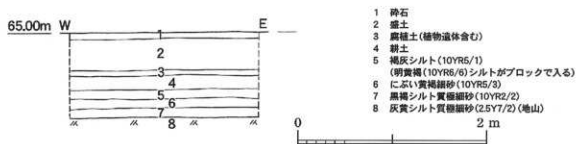
○まとめ

今回の調査では、遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。遺物も出土していない。

今回の調査の結果、遺構が確認されなかったことから、慎重工事で対応する。



坪配置図



土層図



調査前の状況



重機掘削



作業風景



坪1 (南から)



埋め戻し作業



埋め戻し後の状況

1 4. 福崎駅周辺整備に伴う試掘調査

調査地点	神崎郡福崎町福田
調査主体	福崎町教育委員会
調査担当	樋口 碧 渡辺 昇 (播磨町教育委員会)
調査期間	平成28年 6月28日 (火) 9月14日 (水) 11月25日 (金)



調査地点の位置(S=1/2,500)

○調査に至る経過

駅周辺整備に伴い、埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。北側部分については兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所が施工することから、兵庫県教育委員会によって6月15日に試掘調査が実施された。引き続き福崎町教育委員会によって試掘調査を行うこととなった。買収状況によって随時調査を行うこととし、平成28年6月28日に3か所、9月14日に5か所、11月25日に2か所の試掘調査を行った。一部遺構の広がりを確認するために坪(坪18・坪19)を追加した。

○調査の方法

調査対象地区の地目は、福崎駅周辺整備事業による宅地撤去後の更地並びに道路であった。開発予定地に2×2mの坪を設定した。約20mごとに坪を計画した。買収の進捗状況に合わせて調査を実施した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置付けられる。遺跡は線路を隔てた福崎駅北側に清水遺跡が、東北東に福田東田黒遺跡が存在する。

福崎駅周辺は宅地化が早く、地表面の確認が実施できず、埋蔵文化財の存在が不明確な地域である。市街地であることから表面観察から判断することは不可能であるため、試掘調査を実施した。

○坪の概要

坪1～3は県道部分の北側に位置する。坪1は盛土が厚く盛土の下で地山を検出した。遺構、遺物は確認されていない。

坪2は盛土の下に2層の堆積土があり、その下が地山である。第2層上面で溝状遺構を確認したが、現代もしくは近代のものと思われる。第3層はにぶい黄褐細砂で河川堆積物であろう。

坪3は盛土の下が第2層暗褐細砂で、第3層は黒褐細砂、第4層が地山である。第2、第3層は河川堆積物と思われる。3層上面で数点の土師器小片が出土している。坪内では遺構は確認されなかったが、周辺に遺構が存在する可能性がある。

坪11は駅東側である。土層は4層から成っている。第1層は盛土、第2層は耕土、第3層は盛土、第4層は黒褐細砂(礫含む)で、その下が地山である黄灰シルトである。地山面で溝状遺構を確認したが、ガラス、ビニールが入っており、解体前の住居に伴うものと思われる。

坪13は一部細かく分層されたが、大きくは4層から成る。第1層は碎石で、第2層は盛土である山土、第3層は黄灰シルト(耕土・礫・瓦含む)、第4層は灰褐極細砂で、第5層が遺構面である。

あるにぶい黄褐極細砂である。第5層は上部が柔らかく、約20cm下でしっかりした硬い面を検出した。ただ色調は変化なく層分けは微妙である。下面でビット2基を確認した。中世須恵器がビット内から出土しており、中世後半の遺構と思われる。第4層上面に明赤褐細砂が底にレンズ状に堆積している。2～4層は水平堆積しておらず、人為的な層と思われる。

坪14、15は宅地などの跡地で地山面の下までコンクリート・下水管などが入っており、遺構は認められない。

坪16は6層から成る。第1層は碎石で、第2層は盛土である山土（改良材）、第3層は攪乱層（盛土）、第4層は黄灰極細砂、第5層は暗褐極細砂で、第6層が地山と思われる遺構面である黄褐細砂（礫含む）である。坪の北東を中心に現代宅地の痕跡（攪乱坑）が見られる。南西部で黒褐シルト質極細砂を埋土とする土坑が検出されている。最大長65cm、深さ15cmの断面皿状を呈する。第6層は他の坪の地山と比べてやや淡かったため念のため掘り下げたところ下層は礫層となっており自然堆積（河川堆積物）と思われる。

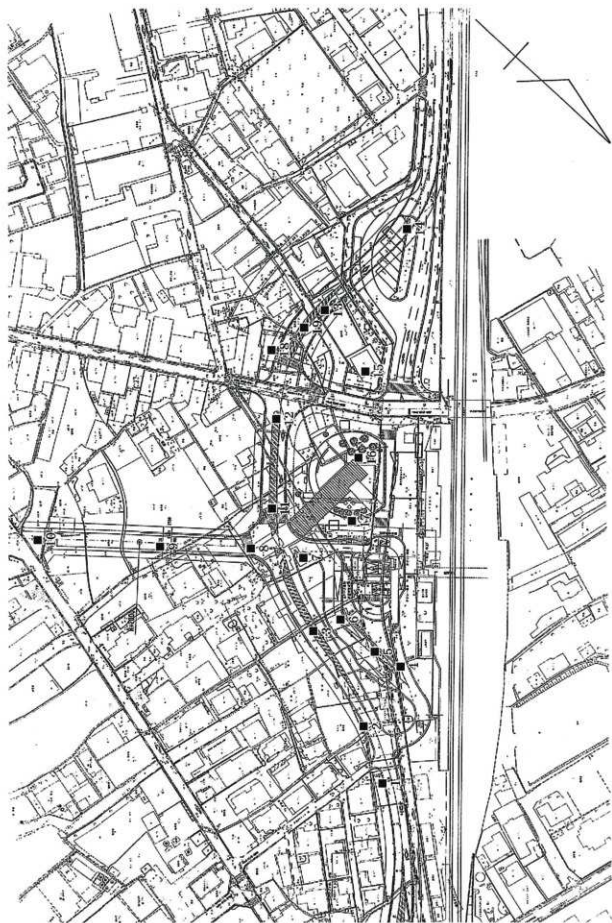
坪18、19は坪13で遺構が確認されたことから、範囲確認のために追加した坪である。坪18は現果道甘地福岡線南側に設定した。盛土下でコンクリート基礎が残っていたので調査面積を狭めて調査した。第1層は盛土、第2層は耕土、第3層はにぶい黄橙シルト質極細砂、第4層は暗褐シルト質極細砂、第5層は黄褐シルト質極細砂で、第6層は黒褐シルト質極細砂、第7層が地山と思われる褐シルト質極細砂である。第6層が坪13の包含層相当層であろうが遺物は出土していない。地山面が坪13の遺構面に相当すると思われるが、遺構は確認されず遺物も出土していない。

坪19は町道を隔てた坪13北東部に設定した。アスファルト・碎石・盛土の下に耕土があり、その下にぶい黄橙シルト質極細砂、灰黄褐細砂、地山である褐シルト質極細砂となっている。遺構・遺物は確認されていない。地山面が70.10mで、坪13の地山面70.35mより低くなっていることから、坪13周辺もしくは西側に広がる微高地上に広がる遺跡であるかもしれない。

〇まとめ

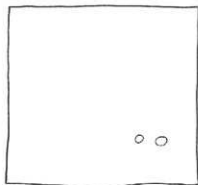
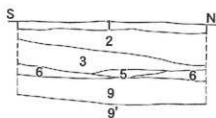
今回の3回の試掘調査では、坪13、16で遺構が検出され、新たに遺跡の存在が明らかとなった。遺物は少ないが須恵器が出土しており、中世後半のものと思われる。

今回の調査の結果、掘立柱建物の可能性の高いビットを確認した。坪13、16周辺に中世の遺跡が確認され本発掘調査が必要である。

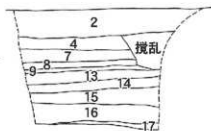


坪位置圖

71.45m

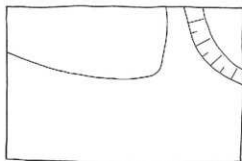
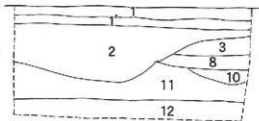


坪13



坪18

70.40m



坪16

- 1 砕石
- 1' 盛土(改良土)
- 2 盛土(山土)
- 3 黄灰シルト(2.5Y5/1)円礫・互合む
- 4 灰質褐極細砂(10YR4/2)(粘土)
- 5 明赤褐細砂(5YR5/6)
- 6 灰褐極細砂(7.5YR4/2)
- 7 にぶい黄褐色シルト質極細砂(10YR5/3)礫含む
- 8 暗褐シルト質極細砂(10YR3/3)
- 9 にぶい黄褐色シルト質極細砂(10YR4/3)(マンガン含む)
- 9' にぶい黄褐色シルト質極細砂(10YR4/3)(9層よりやや暗く硬い)
- 10 黒褐シルト質極細砂(2.5Y3/2)
- 11 暗灰質砂礫層(2.5Y5/3)指礫石・準大円礫
- 12 礫層(円礫)
- 13 にぶい黄褐色シルト質極細砂(10YR5/4)
- 14 黒褐シルト質極細砂(10YR3/2)マンガン含む、包含層相帯層
- 15 褐シルト質極細砂(10YR4/4)
- 16 黒褐シルト質極細砂(10YR2/2)
- 17 灰質褐シルト質極細砂(10YR4/2)



土層図



坪1 (南から)



坪1 断ち割り状況 (南西から)



坪2 (南から)



坪3 (南から)



坪3 埋め戻し後の状況



坪11 (南から)



坪11 (南から)



坪11 埋め戻し後の状況



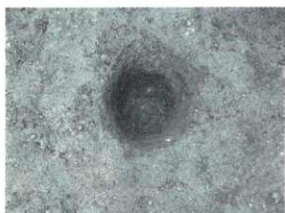
坪13 作業風景



坪13 (南から)



坪13 遺構検出状況



坪13 ビット完掘状況



坪14 (南から)



坪16 (南から)



坪16 (南から)



坪16 断ち割り状況



坪18 調査前の状況（北西から）



坪18 コンクリート基礎検出状況



坪18 作業風景



坪18（西から）



坪18 埋め戻し後の状況



坪19 調査前の状況（南から）



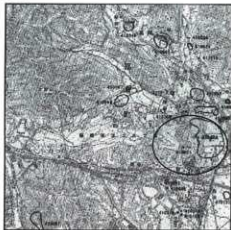
坪19（西から）



坪19 埋め戻し後の状況

15. 高岡・福田地区ほ場整備事業に係る試掘、確認調査

調査地区	神崎郡福崎町高岡・福田
調査主体	福崎町教育委員会
調査担当	渡辺 昇(福崎町教育委員会)
調査期間	平成28年9月19日～ 平成29年3月1日(実働17日間)



調査地点の位置(S=1/35000)
(兵庫県遺跡地図2011.3「前之庄」)

○調査に至る経過

高岡福田地区においてほ場整備の計画があり、観音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡などが含まれるため、用地内の分布調査を受けて確認調査を行った。耕作物の都合などで3期に分けて調査を実施した。

○調査の方法

調査対象地区の現状の大半は水田である。ほ場整備事業用地の分布調査や現地での地形を考慮して試掘、確認調査を実施した。2×2mの坪を基準として計184か所設定した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川西岸に位置し、市川と市川の支流である七種川によって形成された段丘面並びに氾濫原にあたる。事業地の中に旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。事業地内を流れる大内川も一時期の旧河道の1つであったであろうと思われ、現在は河道となっている。北西から砂州状に延びている微高地上に観音堂遺跡が立地していたものと思われる。その南側の低位氾濫原と考えられる部分は、自然流路の一部と考えられる。さらに南側に西側丘陵から延びる微高地があり、そこに宮ノ前遺跡が広がっている。尾根上から段丘面の一部は水田開削による削平を受けている。両遺跡ともに遺跡内に旧河道が認められる。

観音堂遺跡の1度の試掘調査以外は分布調査しか行われておらず、遺跡の内容は把握されていない。福崎西中学校周辺などで土器の出土が知られており、分布調査でも多くの土器が採集されている。北側の下々通遺跡では中世の包含層が確認されている。福田から山崎の丘陵には後期古墳が構築され、神谷の医王寺境内には後期末の方墳である神谷古墳が存在する。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は福崎町内唯一の古代寺院である。前田遺跡北西の谷部では律令期の役人が使用したと言われるベルト(鈿帯)の部品(巡方)が出土している。

○坪の概要

坪1

観音堂遺跡北西部にあたる。層序は耕土、床土(にぶい黄シルト質極細砂)、オリーブ褐細砂、床土(にぶい黄シルト質極細砂)、黒シルト質極細砂、灰黄褐シルト質極細砂(地山)となっている。2面の遺構面がある。上面は黒シルト質極細砂の面でピットを1基北壁で確認している。径0.35m、深さ0.3m以上を測る。地山面が下層遺構面と考えているが、遺構は検出していない。

坪3

観音堂遺跡北西部分で、層序は耕土、にぶい黄シルト質極細砂、黄褐シルト質極細砂、黄灰シルト質極細砂、黒褐シルト質極細砂（礫含む）、黒褐シルト質極細砂、地山である明黄褐砂礫になっている。坪中央から東に落ち込んでおり旧河道肩部と思われる。肩部西側で円形の土坑を検出している。径6.5cm深さ1.5cmの挿鉢状を呈している。遺構周辺から奈良時代の須恵器、土師器が出土しており、遺構の時期と思われる。

坪4・19

県道西側に設定した。ともに河道内堆積で旧河道であったと思われる。遺構は確認されなかった。坪5、18は旧河道と判断したので調査は行っていない。

坪6～8

観音堂遺跡の西側にあたり県道西側、町道南側に設定した。坪6は耕土、床土、オリブ褐細砂、黄灰シルト質極細砂と堆積しており、その下が地山である明黄褐細砂となる。地山面が遺構面で、坪7・8と東になるほど、堆積土が増えている。坪7は地山上に褐シルト質極細砂が挟まれ、その上面も遺構面でピットを検出している。坪8では土坑を検出している。

坪9・13・15～17

坪8東側に設定した坪であるが、すべて洪水堆積を示している。

坪10～12・14

観音堂遺跡の西側で坪6・7の南側の田である。層序は坪6などと同様である。安定した遺構面が存在する。坪11は浅く4層である黄灰シルト質極細砂は存在しない。坪14も浅く3層も認められなかった。地山面で径0.3mのピットを確認している。

坪21・22・24・25・34

観音堂遺跡北側で坪23北から東に設定した坪で、すべて洪水堆積を示しており遺構は確認されなかった。

坪23

県道東側に設定した坪である。西に民家があり一段高くなっている。その丘陵部が本来坪23にも延びていたものを削平して水田にしたと思われる。層序は耕土、灰黄褐極細砂、褐灰砂礫、にぶい黄褐極細砂（地山、礫含む）である。地山面は西から東に下がっている。土坑とピットを検出した。土坑埋土は褐灰砂礫で時期は新しいかもしれない。ピットは褐灰細砂が埋土で中世であろうか。

坪26～29

県道東側に設定した坪である。観音堂遺跡の中央部であるが、やや低くなっている。坪26の層序は耕土、明黄褐中～粗砂、褐灰中～粗砂、暗褐砂礫（マンガン含む）、灰黄褐砂礫で洪水堆積を示している。暗褐砂礫から中世後半の外間タタキメのある土師器甕が出土しており、洪水の時期と思われる。坪27～29もほぼ同様で旧河道であろう。

坪30～33

層序は耕土、明黄褐細砂、褐細砂、にぶい黄極細砂（礫含む・地山）である。地山面で

坪30はピットと土坑を、坪31はピットを検出している。坪30のピットは径25cm、土坑は2基あり検出長1mを超える。坪32は東側に南北に延びる溝状の落ち込みを検出した。坪外へさらに下がっており、現況で深さ0.4mである。坪33は同じ地山（遺構）面を調査しているが、遺構は確認されなかった。

坪35～37

坪32、33の東で観音堂遺跡東側に位置する。すべてにぶい黄橙の地山である遺構面を確認している。坪37だけ断面で落ち込みを検出している。灰黄褐細砂を埋土にしており、新しいかもしれない。

坪38～41

観音堂遺跡南東部で、坪38は耕土、灰黄褐細砂（礫含む）、にぶい黄橙極細砂（礫含む・地山）となっている。地山面が遺構面で西壁沿いで幅0.6m、深さ0.2mの土坑を検出している。坪39、40と南にいくほど堆積土は厚くなっており、坪39は第2層の下に黒褐極細砂（マンガン・礫含む）が加わり、坪40は灰黄褐細砂、黒細砂が加わる。ともに地山面でピットを確認している。坪39の東側の田に設定した坪41も同じ層序を示すが遺構は確認していない。

坪42・43

坪41の東側で観音堂遺跡の南東隅に位置する。耕土、明黄褐砂礫、暗灰黄細砂（礫含む）、灰黄細砂（礫含む）であるが、安定した面が認められない。本来高かった地形が削平されたものと思われる。遺物も出土していない。

坪45・46

宮ノ前遺跡西端で、層序は耕土、床土、包含層（灰黄褐シルト質極細砂）、明黄褐極細砂、地山（灰黄褐砂礫）で、明黄褐極細砂上面が遺構面と思われる。

坪47・49

坪47の層序は坪45と同じであるが、包含層の色調は淡く遺物は出土していない。遺構面と同一面は確認したが、不安定である。坪49も坪47同様に基本層序は坪45と同じであるが、安定した遺構面は確認されなかった。

坪48

層序は坪45と上層は同じであるが、地山の上に黒褐極細砂（マンガン含む）が堆積しており、地山面も遺構面と考えられる。上面は中世後半、下面はそれ以前である。検出した遺構は地山面で溝である。幅1.8m以上、深さ0.35mで東西に延びている。

坪50～57

宮ノ前遺跡の西側で県道西側に位置している。層序は坪45とほぼ同じであるが、色調は緑が強く水分が多かったことを示している。包含層（灰黄褐シルト質極細砂）は同一層と思われるがオリブ褐を呈している。坪50は包含層上面で土坑を確認し、土坑内から漆碗の小片が出土している。坪51、52、53、55では地山面で遺構を検出している。坪51では落ち込みを、それ以外ではピットを確認している。坪54、56、57では遺構は検出できなかったが、遺構面は確認している。

坪58～60

県道西側で安定した遺構面を確認している。坪58は耕土、にぶい黄褐シルト質極細砂、褐灰シルト質極細砂（包含層）、にぶい黄褐シルト質極細砂、褐シルト質極細砂、にぶい黄褐砂礫（地山）になっている。包含層下のにぶい黄褐シルト質極細砂と地山面が遺構面になっている。坪59は上面遺構面で止めており、ピット、土坑を検出している。坪60は東側の田で地山が下がっており、地山上に暗褐色細砂が堆積している。北西から南東方向の溝を検出している。幅0.5m、深さ0.3mで断面形状は逆台形で底が丸くなっている。

坪62

坪48南側に設定した坪で、耕土、床土、にぶい黄褐シルト質極細砂、褐灰シルト質極細砂、にぶい黄褐砂礫（地山）になっている。地山面で落ち込みを検出した。坪の南及び東に延びている。幅0.8m、長さ2m以上である。

坪61・63

宮ノ前遺跡の範囲西端に位置している。層序は他の坪と同様で、耕土、床土、オリーブ褐シルト質極細砂、地山となっている。地山面は安定しているが遺構は認められない。本来地山面は高かったものが耕作地を広げるなどの理由で削平されたものと思われる。

坪64～66

宮ノ前遺跡西側中央で楡山の高い部分下の段丘面に位置する。耕土、床土、褐灰シルト質極細砂（包含層）、にぶい黄褐砂礫（地山）になっている。坪65では地山面でピット8基を検出しており安定している。坪64、66では遺構は確認していないものの遺構面は認められる。

坪67・68

県道西、宮ノ前遺跡中央部に位置する田で、西側が坪67、東側が坪68である。坪67は耕土、床土（にぶい黄橙極細砂）、褐細砂（上面にマンガン層）、灰黄褐砂礫、にぶい黄褐極細砂で褐細砂上面が遺構面になっている。坪68は安定しておらず、坪67で確認した遺構面は下がっており、間に砂礫層・細砂層を挟んでいる。約0.3m下がった深さで南北方向の溝を確認している。幅1.2m、深さ0.5mで底は丸い。北側から延びる旧河道が宮ノ前遺跡の中を通過しており、西側の高い部分の東を限る溝と思われる。

坪70・70-1・71

丘陵裾に広がる段丘面で、耕土、にぶい黄褐中～細砂、黒褐シルト質極細砂（包含層）、褐細砂、にぶい黄褐細砂（礫含む、地山）になっている。褐細砂は洪水堆積物である。山裾に近い坪70では包含層はなく削平されたかと思われる。包含層は濃密で炭を伴っている。坪71ではピットを検出している。遺構の広がりを確認するために坪70-1に間に設定して調査したところ炭と遺構面が確認された。

坪72・73

東西に長い同一の田に設定した坪で、坪72が西側である。層序は耕土、床土、オリーブ褐細砂、黒褐極細砂、褐細砂となっている。第4層上面が遺構面で、上面にはマンガン層が堆積している。坪72では明瞭な遺構は確認されなかった。坪73では2基のピットと1基の土坑を検出した。ピットは径20cmと10cmで、土坑は最大長50cmを測る。古代と思われる須恵器片が出土している。

坪74～77

坪72の南側3枚の田に設定した坪である。耕土、床土、褐細砂で、その下は灰黄褐砂礫層になっている。包含層である黒褐極細砂は存在しない。明瞭な遺構面は確認されず、包含層も検出されていないが、耕土には多くの遺物が散布している。

坪80

県道東が水路北側の南北に長い田に設定した坪で、層序は耕土、床土、オリブ褐細砂、褐細砂、灰黄褐砂礫である。褐細砂上面が遺構面と考えられ、明らかな遺構は確認されていないが遺構が存在する可能性が高い。

坪81・82

坪80の東側の同一の田に設定したが堆積状況は異なる。南側の坪82は耕土、床土、包含層である黒褐細砂が堆積し、その下が地山であるにぶい黄細砂である。包含層、地山ともに礫を含んでいる。地山面でピットを3基検出した。径45cmを測る大形のピットは埋土が灰黄砂礫で自然のものかもしれない。他の2基は黒褐細砂を埋土とし径20cmである。坪81は北側に設定した。耕土の下が1m以上の盛土で、湧水のため下面は確認できなかった。段丘下に位置し水田を広げた際の盛土と思われる。盛土は地山であるにぶい黄細砂礫と暗オリブ灰シルトと浅黄シルトの混ざった層である。

坪83～87

坪83は耕土、床土、黒褐細砂、地山であるにぶい黄褐極細砂で、地山面でピットを6基調査した。明瞭に柱痕跡が認められるピットもある。坪84、85は坪83の東側に設定した坪で層序は同じである。坪84でもピット3基を検出している。坪85では遺構は確認出来なかったが、安定した遺構面は確認している。坪86、87はさらに東側の水田に設定した坪で、基本的に層序は同じであるが、北側の坪86は地山に礫を多く含んでいる。坪86ではピットを、坪87では東西に延びる溝を調査している。

坪88

坪86、87の東の田で、層序は坪86とは3層が異なっている。色調が淡く暗灰黄シルト質極細砂で礫を含んでいる。遺物は出土しておらず、3層の包含層とは異なっており、地山面も色調が淡く安定していないことから、遺跡が広がっていない可能性が高い。

坪89・90

坪89は耕土、床土、暗褐極細砂（礫含む）、にぶい黄褐極細砂（地山）となっており、地山が遺構面である。3層の色調は淡くなっているが、西側の包含層である黒褐細砂～極細砂と同一層と思われる。層が厚くなっており、土器は希薄で遺跡末端部と思われる。坪90は3層が存在せず、遺構面になっている。地表から30cmと浅く、上層部が削平されたと思われる。2基のピットを検出している。

坪91～93

層序は耕土、床土、黒褐極細砂（包含層）、にぶい黄褐極細砂（地山）で、坪91だけ包含層の上に灰黄褐極細砂が堆積している。地山上が遺構面で、ピットと土坑を確認している。

坪94～96・98・101・102・106～108

宮ノ前遺跡の東側にあたる。すべて洪水堆積を示しており、旧河道であったと思われる。須恵器・土師器など古代から中世の遺物が少量出土している。

坪99・100

宮ノ前遺跡の南東部分にあたる。層序は耕土、床土、灰黄褐極細砂、褐～黒褐極細砂（包含層）、地山となっている。明確な包含層と遺構面である。

坪103～105・109・110

坪99の南側で宮ノ前遺跡の南東部で今回の事業用地南東部でもある。層序は耕土、床土、灰黄褐極細砂、灰黄褐細砂、黒褐極細砂（包含層）、地山となっている。坪104は床土下が地山で包含層は存在しない。坪103、105はピットを、坪110はピットと土坑を、坪109は溝を検出している。坪110は出土遺物が多く瓦・稜輪が出土している。

坪111

県道東側で宮ノ前遺跡南端に近い田で、耕土、床土、地山となっている。坪北東隅が落ち込み状に下がっている。自然地形の可能性もある。土師器が1点出土している。

坪112・113

県道東側で西中学校北側の坪111南側に位置している。耕土、明黄褐細砂、黒褐極細砂（礫含む）、地山になっている。坪112では遺構は確認されていないが、坪113は溝状土坑とピットが検出されている。面的に安定している。

坪114～116

前田遺跡西端に位置する畑に設定した。層序は耕土、黄灰細砂、にぶい黄細砂、地山である浅黄細砂である。耕土直下と地山面2面で遺構が確認された。遺物は坪115のピット上面で須恵器底部が出土しているだけであるが、地山面の遺構は中世と思われる。坪116南側の斜面に五輪塔4点（火輪1点、水輪3点）が散乱しており、この部分の遺構の性格を示していると思われる。

坪117～120

坪116東側に設定した坪である。現況では同一の畑になっている。坪117、118は耕土直下が地山になっており、坪119、120は地山上に2層が存在する。地形的に坪117、118部分が最も高く削平されたのではないと思われる。そこから東に向かって下がっていくようである。遺構は確認されていない。地山が中央部分は浅黄細砂（礫含む）であるが、南北（坪119北半、坪120南半）は明黄褐シルトである。形成された時の堆積状況の違いである。

坪121・122

坪120東側の畑で一段低くなっている。坪121は耕土、2層の下に地山客土（盛土）があり、その下に薄い耕土があり、その下が地山である。地山は明黄褐シルトで坪120と同質だが、礫を含んでいる。坪121は下の薄い耕土がなく、2層下にマンガン層が認められる。ともに遺構は認められない。

坪123・127

事業地東側で観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間に位置する。洪水堆積で遺構は認められなかった。2つの坪の結果から旧河道と思われたので、間の坪124～126は調査していない。

坪128～135

県道東側で観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間に位置する。一段低くなっているが、遺物が多く採集されたので、試掘調査を実施した。耕土、床土下は砂礫層が堆積しており洪水堆積で、遺構は確認されなかった。

坪136

県道東側で観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間部分である。層序は耕土、明黄褐細砂、暗褐極細砂、地山である。地山面が遺構面で円形の落ち込みを検出し、竪穴住居跡と思われる。平面形状から弥生時代後期までの遺構と思われる。ピットも1基検出している。

坪137～143

県道東側で観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間部分である。坪141～143の田は分布調査で多くの遺物を採集した地点である。坪137の層序は耕土、明黄褐細砂（礫含む・床土）、褐灰シルト質細砂、褐灰砂礫、にぶい黄褐砂礫である。遺構面と思われる面はなく、地山と確定できる層もないが、褐灰砂礫より下は遺跡の時代より前と思われる。床土以下の層は洪水堆積物で、遺構は確認できなかった。遺物は須恵器片が出土している。坪138～143も洪水堆積物で遺構は存在しない。遺物は出土しているが、氾濫などによる堆積であろう。

坪144・145

坪142南側の一段高い水田で東側坪138とも段がある。観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間部分であるが、周辺部より高くなっており宮ノ前遺跡に近いレベルになっている。坪144の層序は耕土、床土、暗褐細砂、灰黄褐細砂（マンガン含む・包含層）、にぶい黄褐細砂（礫多く含む・地山）である。地山面で土坑を確認している。最大長0.8m、深さ0.15mである。坪145は堆積土が少なく地表から0.35mで地山になっており、地山面で土坑、ピットを検出している。土坑は坪北東隅にあり、外に延びており最大長0.4mを測る。包含層である灰黄褐細砂を埋土としている。包含層そのものは残存しておらず、削平されたものと思われる。

坪146～153

県道西側で観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間である。分布調査の結果、遺跡の広がりが予測されたので試掘調査を実施した。坪146は耕土、にぶい黄細砂、黄灰細砂、灰灰シルト質極細砂、黒褐シルト質極細砂（礫含む）と堆積しており、黒褐シルト質極細砂上面で焼土・炭を2か所で検出している。焼土坑とピットで、中世後半以降の生活面であろう。黒褐シルト質極細砂は包含層である。坪147ではその下面の浅黄シルト質極細砂（地山）面で遺構を確認しており、坪146は2面の遺構面が存在すると思われる。坪147では上層遺構面は存在せず、地山面1面だけである。5基のピットと南東部に落ち込む溝（もしくは落ち込み）を検出している。須恵器が出土しており、鎌倉時代の遺構と思われる。坪148、152でも下面の遺構面は確認したが、遺構は検出していない。坪149、150は旧河道と思われる堆積を示している。坪151、153も洪水堆積物が認められ、遺構は確認できなかった。坪151からは中国竜泉窯産の青磁片が出土している。

坪154・155・157～162

宮ノ前遺跡西側の丘陵部分で字楡山東・字楡山に位置している。坪155は耕土直下が地山になっている。坪157、158、158-1、160、161、162は耕土の下に褐シルト質極細砂（マンガン含む）が堆積し地山である明黄褐シルト質極細砂（礫含む）になっている。坪157と坪161では地山面で土坑や溝状の落ち込みを検出した。埋土は褐シルト質極細砂である。不定形であり、緩やかに落ち込むことから自然地形に2層が溜まったものと思われる。坪157では

東西方向の動溝も確認している。坪154、159では地山(岩盤)が東側に落ち込んでいる状況を確認している。坪154は尾根端部の岩盤の落ち込みで現在の水田の東半に盛土を置いて水田を広げた状況が看取される。坪159は尾根部から南東に延びる谷部の肩を調査した。遺物は出土していない。

坪163~165

前田遺跡南側の谷部分の水田で、字猪ノ谷にあたる。層序は耕土・灰黄シルト質細砂・黄灰シルト質細砂・浅黄シルト質細砂・地山である暗灰黄シルト質細砂である。坪163、165は耕土下に盛土が認められる。坪163では浅黄シルト質細砂面から掘り込まれた暗渠が確認された。面としてはやや安定しており、長期間続いた面と思われる。時期的には古いものではなく近世以降であろうか。

坪166

坪163南西部に設定した坪で南側から延びる谷の合流部にあたる。0.5mの盛土があり、その下が黄灰細~中砂でこの面に杭列が打ち込まれている。下の砂礫層に及んでいる。杭は4本検出している。横木は認められないが「しがらみ」かもしれない。地表下1.2mで岩盤になる。

坪167~169

坪166の北西で前田遺跡南側の谷部分中央に位置している。字多イ谷にあたる。東側の坪167は坪163と同じ堆積を示すが、礫を含み遺構面と思われる安定した面(黄灰細~中砂層上面)を確認した。この面は坪168、169に共通する面である。この層の下は洪水堆積物で、そこから縄文土器片が出土している。坪168、169では暗渠が確認された。横木の上に扁平な石材を並べるもので、丁寧に作られている。坪169は床土下から掘り込まれているが、坪168はさらに下の層から掘られており一時期古い遺構である。

坪170・171

長野山ヶ谷池下の水田で、元の地形は谷部である。坪170は水はけの悪い田で耕土、床土、灰シルト、同色砂礫層になっている。坪171は耕土、床土下が地山である暗黄褐シルト質細砂(礫含む)になっている。ともに遺構、遺物は認められなかった。

坪172~175

前田遺跡南側の谷部分西側で西はグラウンドになっている。坪172では床土下で遺構が検出された。溝とピットで、溝は東西方向に延びており幅0.4mを測る。下面に坪173の遺構面が存在すると思われるが掘り下げて確認していない。坪173、174、175は耕土、床土下に包含層である黄灰シルト質極細砂で、その下が遺構面である灰黄褐シルト質極細砂である。明瞭な遺構は確認していないが、マンガン層が堆積し安定した面になっている。ともに包含層から須恵器が出土しており、中世のものと思われる。

坪176~182

前田遺跡北側の谷部である。坪176は神谷西共同墓地下の水田で、以前に土地改良がなされている。その際の盛土(シルト質)があり、遺構は認められなかった。坪177は前田遺跡北西にあたる低い部分である。耕土、床土、灰黄褐シルト質細砂(礫含む)、灰黄シルト質極細砂、褐灰シルト質極細砂(礫多く含む)となっている。遺物は出土していないが、褐灰シルト質極細砂面は安定している。坪178も一度土地改良がなされているが、盛土はない。色調は異なるが、坪177と同じ堆積で遺構面を確認した。土師器が1片出土している。坪181、

182は坪178北東の田である。耕土、床土の下は褐灰砂礫（マンガン含む）、黒褐シルト質極細砂、黄褐シルト質極細砂（地山）となっており、褐灰砂礫から遺物が出土している。坪181では地山面でピットを5基検出している。中世と思われる。坪179は坪178の東側の一段低い田である。耕土、床土下が地山である灰黄褐シルト質細砂（礫含む）で、地山面で遺構を検出している。北東隅で確認し60cm以上の大きさの土坑で、坪外に延びている。黒褐シルト質細砂を埋土としている。坪180は耕土、灰黄褐シルト質細砂（礫含む）、褐灰シルト質極細砂（包含層）、黄褐シルト質極細砂（地山）で、地山面で落ち込みを確認した。水が流入し十分な精査が出来なかったが1m前後の落ち込みで、須恵器、土師器が出土している。

当初坪を設定し試掘調査を行う予定であったが、周辺の調査結果から旧河道や遺構面が存在しないことが確認されたので、以下の坪は調査していない。

坪5、18、20、97、124～126

また、以下の坪は諸事情から調査を実施していない。

坪2、44、69、78、79、156

○出土遺物の概要

弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・木製品が出土している。遺物量は多いとは言えない。宮ノ前遺跡の一部を除いて小片が多い。図化した遺物は20点である。1は弥生末の二重口縁の壺で、端部は不明瞭である。2は土師器甕口縁部で内面はハケ整形を施し、煤付着している。3～13は須恵器である。3は灯蓋、4は坏A、5～7は坏B、8は台付き皿、9は椀、10は握ね鉢、11～13は椀である。10～13は東播磨産で中世の所産である。14は青磁、15は白磁で中国からの搬入品である。16、17は土師器で、16は大形の皿、17は播形とされる甕である。18は平瓦、19は丸瓦、20は染付磁器である。写真だけが石鏡も採集している。弥生時代の凹基のものである。坪39で採集した。

○まとめ

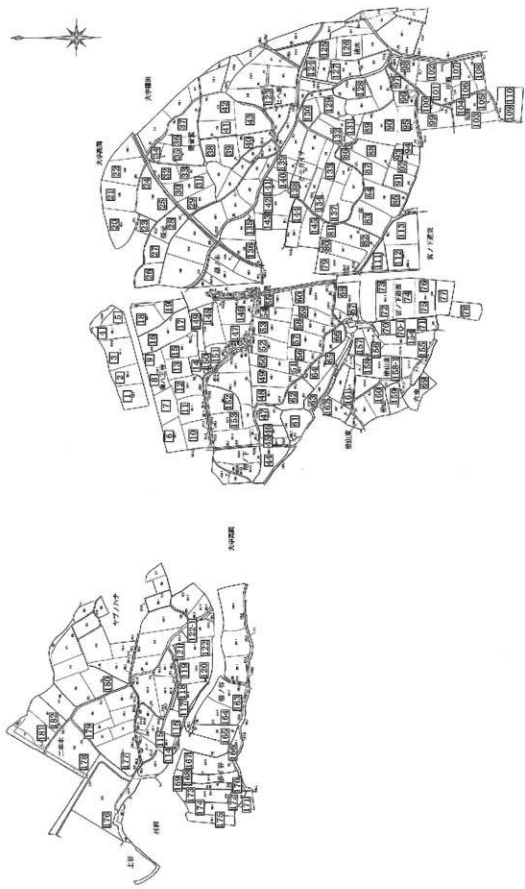
今回の調査では、周知の埋蔵文化財包蔵地を中心に遺跡が展開していることが明らかになった。観音堂遺跡と宮ノ前遺跡の間には大内川が流れており、谷地形によって南北に分かれている。最も低い部分に変更はないが、周辺の一段高い部分には遺跡が広がる部分があることが確認された。逆に遺跡内でも遺構が認められない部分が明らかになった。

観音堂遺跡は中央に谷部（旧河道）があり、県道周辺には遺跡が認められなかった。東西に遺跡が分断されることが明らかとなった。県道西側の字南八王寺は東側の坪4、16～19が旧河道で、その西側の坪9、13、15の水田は氾濫原で遺構は確認されなかった。県道東側の字桜元の坪26～28も大内川の旧河道と思われ、遺構は確認されなかった。北側の坪21、22は七種川の氾濫部分に相当し遺構は認められなかった。坪24、25の水田は低地になっており、遺構は認められなかった。坪23部分は段丘上で遺構が確認されたが、桜元ではそれ以外では遺跡の広がりには確認していない。段丘上の坪42、43部分は、耕土直下が地山になっており遺構は確認出来なかった。地形は西から東に高くなっていったと思われ、削平された可能性が高い。検出した遺構は、土坑、溝、ピットで奈良時代から中世にかけての時期である。

宮ノ前遺跡は、遺跡の範囲に多少の変化があったが、概ね現状に近いものである。東側（字中筋）は氾濫原や旧河道で遺跡は広がっていなかった。県道周辺は段丘面が延びており、遺跡が広がっている。坪136では壑穴住居跡を確認しており、低位段丘面に弥生時代後期の集落が広がっている可能性が高まった。高位段丘面から丘陵上はすでに削平されており、遺跡は認められなかった。確認した遺構はピット、土坑、溝、落ち込みで奈良時代から鎌倉時代である。弥生時代から中世にわたる複合遺跡であることが確認できた。遺跡の中心は古代と思われる。椀鏡と

中国製の輸入陶磁器が出土しているのはそれなりの大きな集落があったことを示している。また、瓦の出土は古代末に瓦葺き建物があつた可能性を示唆している。

前田遺跡は丘陵上の高い部分が遺跡範囲であつた。調査の結果、東半はすでに削平されており、遺構面は残存していなかつた。南斜面に五輪塔が散乱しており、確認調査でも土壙が検出されている。西半は中世後半からの墓地と思われる。南側の字多イ谷では遺構面が確認され、ピットが検出されている。中世後半の集落跡と思われる。前田遺跡北側（字二本木・ヤブノハナ）でも遺構面が認められ、落ち込み、土坑、ピットが検出されている。時期はやや古く古代の集落跡の可能性が高い。



坪位置図

調査一覧

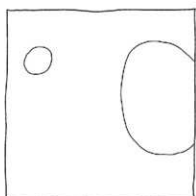
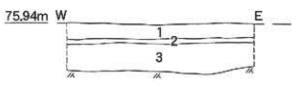
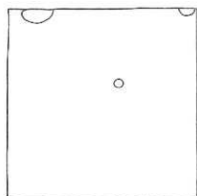
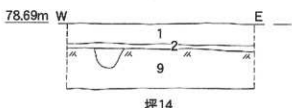
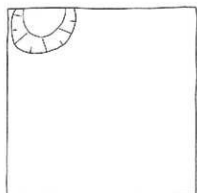
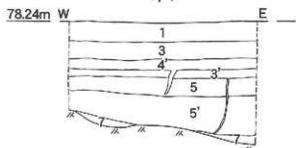
坪	調査日	住所	遺跡名	遺構	掘深度	遺物	備考
1	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	ビット	30		
2	未	高岡字南八王寺	観音堂遺跡				
3	9.19	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	土坑	80	須恵器・土師器	
4	9.19	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			旧河道
5	未	高岡字南八王寺	観音堂遺跡				旧河道
6	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	遺構面	50	須恵器	
7	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	ビット	40		
8	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	土坑	60		
9	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし		須恵器	
10	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	遺構面	30		
11	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			
12	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	遺構面	30		
13	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			
14	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	ビット	20		
15	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			
16	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			旧河道
17	1.30	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			旧河道
18	未	高岡字南八王寺	観音堂遺跡				旧河道
19	9.19	高岡字南八王寺	観音堂遺跡	なし			旧河道
20	未	高岡字板元	観音堂遺跡				
21	11.09	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			
22	11.09	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			
23	9.21	高岡字板元	観音堂遺跡	土坑・ビット	45		
24	9.21	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			
25	9.21	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			
26	9.19	高岡字板元	観音堂遺跡	なし		土師器・陶磁器	旧河道
27	9.19	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			旧河道
28	9.21	高岡字板元	観音堂遺跡	なし			旧河道
29	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	なし			旧河道
30	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	ビット・土坑	20		
31	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	ビット	20		
32	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	落ち込み	25		
33	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	遺構面	25		
34	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	なし			
35	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	遺構面	20		
36	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	遺構面	20		
37	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	落ち込み	20		
38	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	土坑	25		
39	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	ビット	30	土師器	
40	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	ビット	30	須恵器・土師器	
41	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	遺構面			
42	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	なし			旧河道
43	11.09	福田字観音堂	観音堂遺跡	なし			旧河道
44	未	高岡字池ノ下	宮ノ前遺跡				湧水
45	9.21	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	35	須恵器・土師器・陶磁器	
46	9.21	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	30		
47	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	なし			
48	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	溝	40	須恵器	
49	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	なし			
50	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	土坑	30	土師器・漆椀	
51	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	落ち込み	50	須恵器・土師器	
52	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	ビット	40	土師器	
53	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	ビット	30		
54	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	70		不安定
55	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	ビット・落ち込み	20		
56	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	土坑	40		
57	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	30	須恵器・土師器・陶磁器	
58	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	40		2面
59	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	土坑・ビット	55	須恵器・土師器・陶磁器	
60	10.03	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	溝	50	土師器・陶磁器	不安定
61	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	40		
62	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	落ち込み	45	須恵器・土師器	

調査一覧

坪	調査日	住所	遺跡名	遺構	面深度	遺物	備考
63	1.31	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	30		
64	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	60	魚住櫻鉢	
65	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	ビット	35	須恵器・土師器	
66	9.23	高岡字中溝	宮ノ前遺跡	遺構面	30	須恵器	
67	10.03	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	遺構面	30		
68	10.03	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	溝	60		
69	未	高岡字穴虫	宮ノ前遺跡				進入困難
70	9.23	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	なし		土師器	
70-1	9.23	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	炭、遺構面	30		
71	9.23	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	炭集積・ビット	30	須恵器・土師器	
72	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	遺構面	30	土師器	
73	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	ビット・土坑	30	須恵器・土師器	
74	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	なし			
75	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	なし		須恵器・陶磁器	
76	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	なし		須恵器・土師器	
77	2.01	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡	なし		陶磁器	
78	未	高岡字宮ノ下道西	宮ノ前遺跡				
79	未	福田字二赤	宮ノ前遺跡				
80	2.01	福田字二赤	宮ノ前遺跡	遺構面	30		
81	2.01	福田字二赤	宮ノ前遺跡	なし			
82	2.01	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット	30		
83	10.03	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット	40		
84	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット	35		
85	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	遺構面	50	土師器	
86	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	遺構面・ビット?	40		
87	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	溝	40		
88	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	なし			
89	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	遺構面	50		
90	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット	30		
91	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット・土坑	40		
92	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	ビット・土坑	45	須恵器・土師器	
93	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	遺構面	35		
94	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	なし		土師器	
95	10.24	福田字二赤	宮ノ前遺跡	なし			
96	10.21	福田字二赤	宮ノ前遺跡	なし		須恵器・土師器	
97	未	福田字二赤	宮ノ前遺跡				旧河道
98	10.21	福田字中筋		なし			旧河道
99	10.21	福田字宮前	宮ノ前遺跡	遺構面	55	土師器	
100	10.21	福田字宮前	宮ノ前遺跡	遺構面	40	土師器	
101	10.21	福田字中筋		なし			旧河道
102	10.21	福田字中筋		ビット	30		
103	10.21	福田字宮前		ビット	50	須恵器・土師器・陶磁器	
104	10.21	福田字宮前		なし			
105	10.21	福田字宮前		ビット	45	須恵器・土師器	
106	10.21	福田字中筋		なし			旧河道
107	10.21	福田字中筋		なし			旧河道
108	10.21	福田字中筋		なし		土師器・陶磁器	旧河道
109	10.21	福田字中筋		溝	30		
110	10.21	福田字中筋		ビット・土坑	50	須恵器・土師器・瓦	確認
111	10.03	高岡字宮ノ下道東		落ち込み	40	土師器	不安定
112	10.24	高岡字宮ノ下道東		遺構面	40		
113	10.24	高岡字宮ノ下道東		溝・ビット	50	土師器	
114	2.17	高岡字前田	前田遺跡	ビット・土坑	20		
115	2.17	高岡字前田	前田遺跡	ビット	20	須恵器	
116	2.17	高岡字前田	前田遺跡	土坑	20		
117	2.17	高岡字前田	前田遺跡	遺構面	20		
118	2.17	高岡字前田	前田遺跡	遺構面	20		
119	2.17	高岡字前田	前田遺跡	なし			
120	2.17	高岡字前田	前田遺跡	なし			
121	2.17	高岡字前田	前田遺跡	なし			
122	2.17	高岡字前田	前田遺跡	なし			
123	11.11	福田字ヒヘ田		なし			

調査一覧

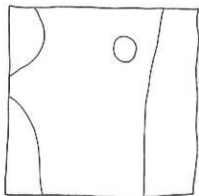
坪	調査日	住 所	遺跡名	遺 構	面深度	遺 物	備 考
124	未	福田字ヒヘ田					旧河道
125	未	福田字ヒヘ田					旧河道
126	未	福田字ヒヘ田					旧河道
127	11.11	福田字ヒヘ田		なし			
128	11.11	福田字クモカイチ		なし			
129	11.11	福田字クモカイチ		なし			
130	11.11	福田字クモカイチ		なし			
131	11.11	福田字クモカイチ		なし			
132	11.11	福田字クモカイチ		なし		須恵器・土師器	
133	11.11	福田字クモカイチ		なし		土師器	
134	11.11	福田字クモカイチ		なし		土師器	
135	11.11	福田字クモカイチ		なし			
136	11.11	福田字クモカイチ		住居跡・ビット	40	須恵器・土師器	
137	3.01	福田字クモカイチ		なし		須恵器	
138	3.01	福田字クモカイチ		なし		土師器	
139	3.01	福田字クモカイチ		なし		須恵器・土師器	
140	3.01	福田字クモカイチ		なし			
141	3.01	福田字クモカイチ		なし		須恵器	
142	3.01	福田字クモカイチ		なし			
143	3.01	福田字クモカイチ		なし			
144	3.01	福田字二赤		土坑	40	土師器	
145	3.01	福田字二赤		ビット・土坑	20		
146	2.28	高岡字南八王寺		ビット・土坑	30	土師器	焼土
147	2.28	高岡字南八王寺		ビット・落ち込み	40		
148	2.28	高岡字南八王寺		遺構面	50		
149	2.28	高岡字南八王寺		なし		須恵器	
150	2.28	高岡字南八王寺		なし		陶磁器	
151	2.28	高岡字南八王寺		なし		陶磁器	竜泉窯
152	2.28	高岡字南八王寺		遺構面		須恵器	
153	2.28	高岡字南八王寺		なし			
154	2.27	高岡字檜山東		なし			
155	2.27	高岡字檜山東		なし			
156	未	高岡字檜山東					進入困難
157	2.27	高岡字檜山東		土坑・落ち込み	15		
158	2.27	高岡字檜山東		なし			
158-1	2.27	高岡字檜山東		なし			
159	2.27	高岡字檜山		なし			
160	2.27	高岡字檜山		なし			
161	2.27	高岡字檜山東		溝?			自然か
162	2.27	高岡字檜山東		なし			
163	2.20	高岡字猪ノ谷		なし			
164	2.20	高岡字猪ノ谷		なし			
165	2.20	高岡字猪ノ谷		なし		須恵器	
166	2.20	高岡字猪ノ谷		しがらみ	80		
167	2.20	高岡字多イ谷		遺構面	50	土師器	
168	2.20	高岡字多イ谷		暗渠	20		
169	2.20	高岡字多イ谷		暗渠	30		
170	2.24	高岡字多イ谷		なし			
171	2.24	高岡字多イ谷		なし			
172	2.20	高岡字多イ谷		ビット・溝	20	須恵器	
173	2.20	高岡字多イ谷		遺構面	40	須恵器	
174	2.20	高岡字多イ谷		遺構面	20	土師器・陶磁器	
175	2.24	高岡字多イ谷		遺構面	60	須恵器	
176	2.24	高岡字二本木		なし			
177	2.24	高岡字ヤブノハナ		遺構面	50		
178	2.24	高岡字二本木		遺構面	30		
179	2.24	高岡字ヤブノハナ		土坑	20		
180	2.24	高岡字ヤブノハナ		落ち込み	30	須恵器・土師器	
181	2.24	高岡字二本木		ビット	50	土師器	
182	2.24	高岡字二本木		遺構面	40	土師器	



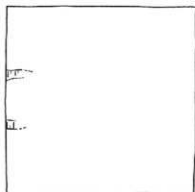
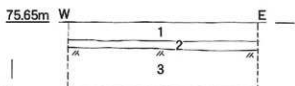
- | | |
|-----------------|------------|
| 1 耕土 | 5 黒褐～暗褐細砂 |
| 1' 耕土 | 5' 黒褐～暗褐砂礫 |
| 2 床土 | 6 灰黄褐極細砂 |
| 3 にふい貴～灰黄褐色極細砂 | 7 黒極細砂 |
| 3' にふい貴～灰黄褐色極細砂 | 8 褐灰細砂 |
| 4 褐灰層～極細砂(包含莖) | 9 地山 |
| 4' 褐灰砂礫 | 10 盛土 |
| | 11 暗灰黄極細砂 |



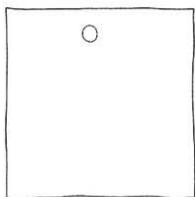
土層図



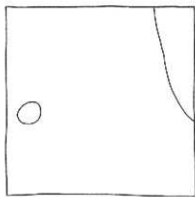
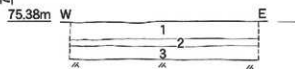
坪30



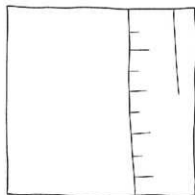
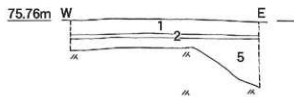
坪38



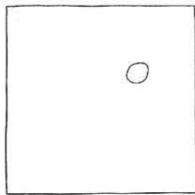
坪31



坪39

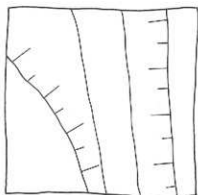
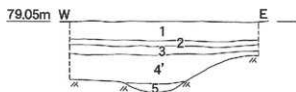


坪32

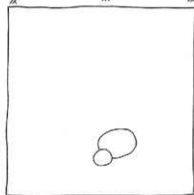


坪40

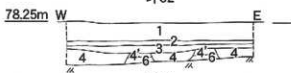
土層圖



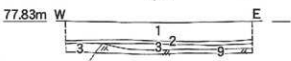
坪48



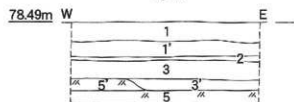
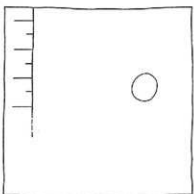
坪52



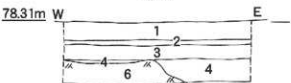
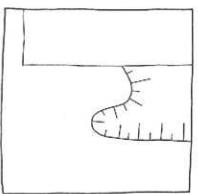
坪53



坪55

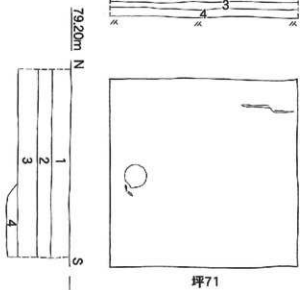
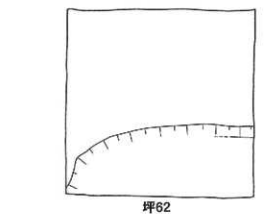
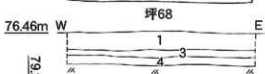
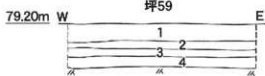
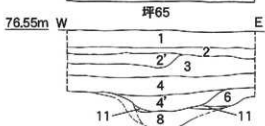
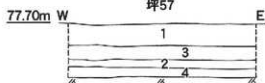
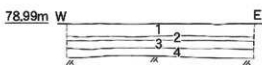
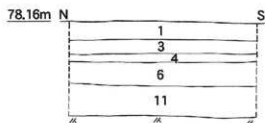


坪51

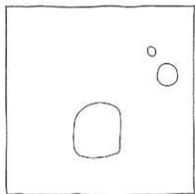


坪56

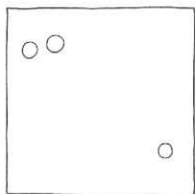
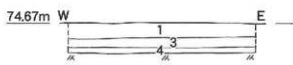
土層圖



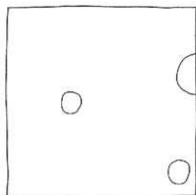
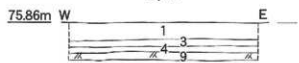
土層図



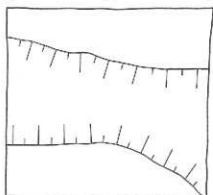
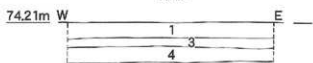
坪73



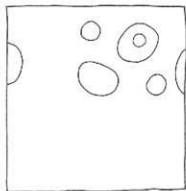
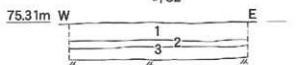
坪84



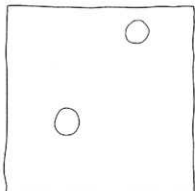
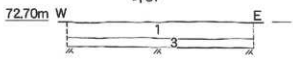
坪82



坪87

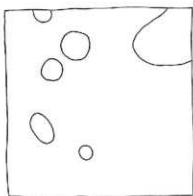


坪83

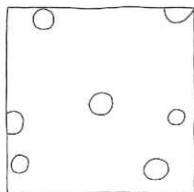


坪90

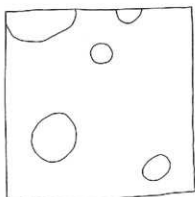
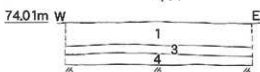
土層圖



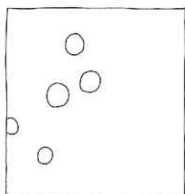
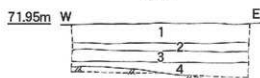
坪91



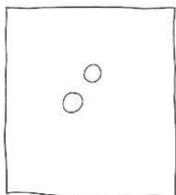
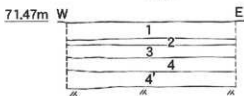
坪103



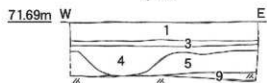
坪92



坪105

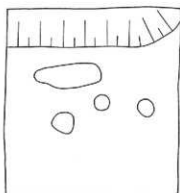
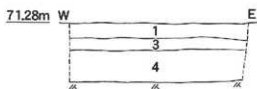


坪102

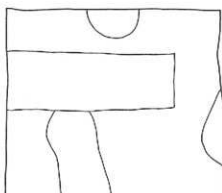


坪109

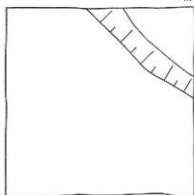
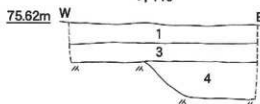
土層圖



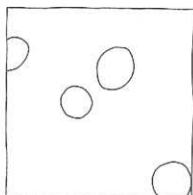
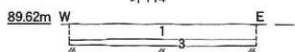
坪110



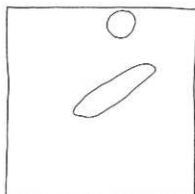
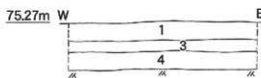
坪114



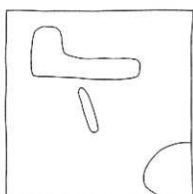
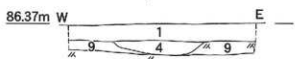
坪111



坪115

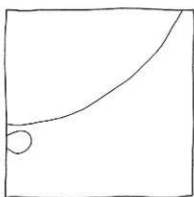


坪113

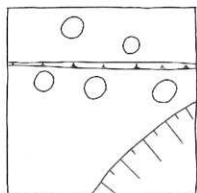


坪116

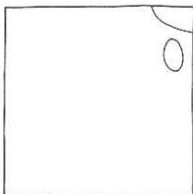
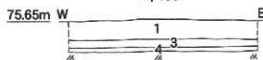
土層圖



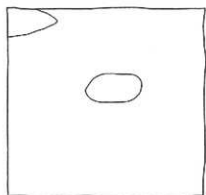
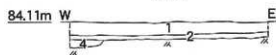
坪136



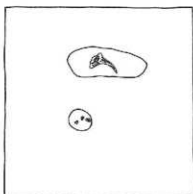
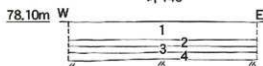
坪147



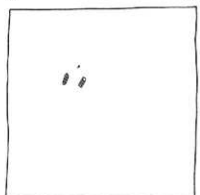
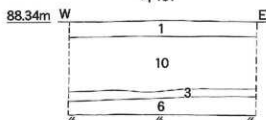
坪145



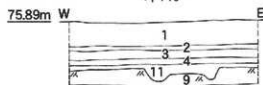
坪157



坪146

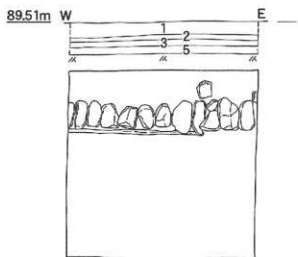


坪166

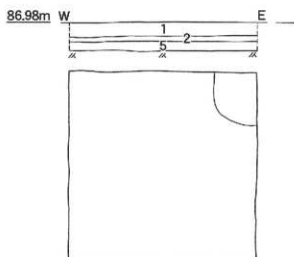


坪144

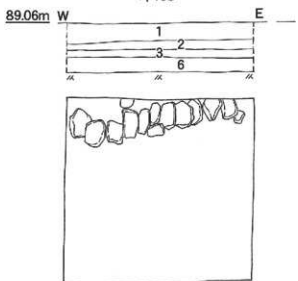
土層圖



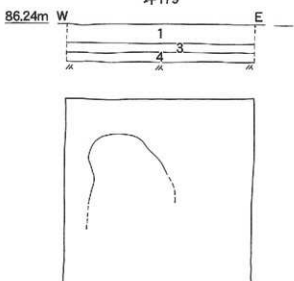
坪168



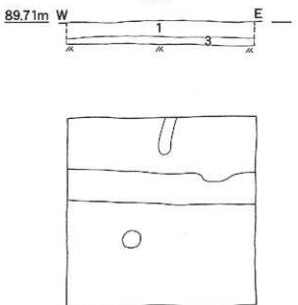
坪179



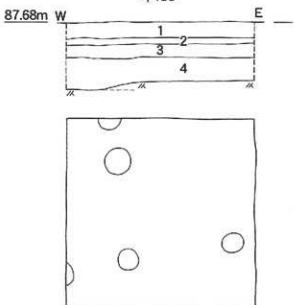
坪169



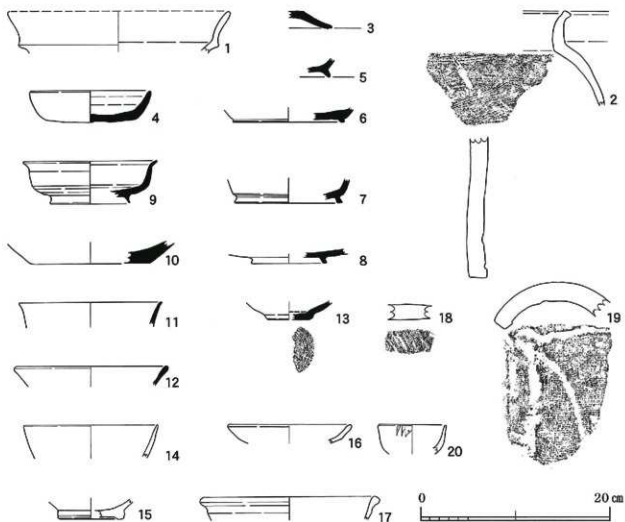
坪180



坪172



坪181



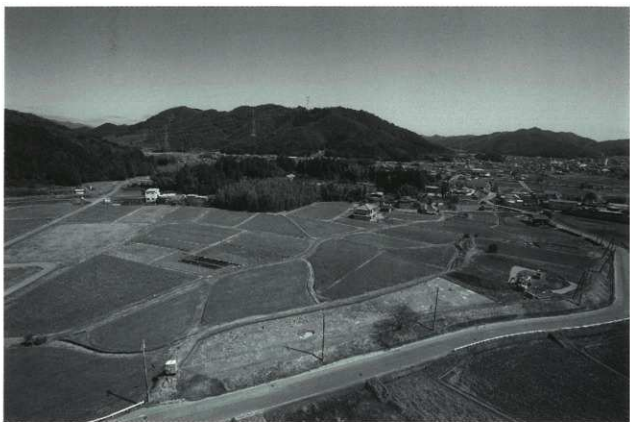
出土遺物

土器観察表

番号	種別	器種	押No.	法量 (cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土師器	壺	94	(23.0)	残4.4		ナデ	ナデ	
2	土師器	甕			残10.0				
3	須恵器	坏蓋	3		1.6		ロクロナデ	ロクロナデ	
4	須恵器	坏	92	(12.8)	3.3	(9.4)	ナデ	ナデ	
5	須恵器	坏	39, 40		残2.0		ヘラケズリ	ナデ	
6	須恵器	坏	59		残1.6	(11.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
7	須恵器	坏	58		残2.7	(11.4)	ナデ	ナデ	
8	須恵器	皿	58		残1.4	(7.6)	ヘラケズリ	ヘラミガキ	
9	須恵器	椀碗	110	(14.0)	残4.5	(8.4)	ヘラミガキ	ロクロナデ	
10	須恵器	押鉢	64		残2.1	(12.4)	ナデ		
11	須恵器	椀	103	(15.0)	残2.6		ロクロナデ	ロクロナデ	
12	須恵器	椀	45	(16.0)	残2.1				
13	須恵器	椀	57		残2.0	(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
14	青磁	碗	59	(14.0)	残3.5				
15	白磁	碗	115		残2.2	(7.0)	ヘラケズリ		
16	土師器	皿	175	(13.0)	残2.0	(10.8)	ナデ	ナデ	
17	土師器	鍋	65	(18.9)	残2.45		ナデ	ナデ	
18	瓦	平瓦	57		残4.7		ナデ	ナデ	
19	瓦	丸瓦	110	長さ 14.9	厚み 2.1				
20	青花磁器	小碗	77	(7.0)	残3.1				



観音堂遺跡・宮ノ前遺跡遠景（西上空から）



前田遺跡・ヤブノハナ遺跡全景（南から）



前田遺跡全景（北から）



前田遺跡全景（東から）



坪1 (南から)



坪3 土坑検出状況 (南から)



坪7 (東から)



坪8 (南から)



坪18・19 調査前の状況 (南から)



坪3 調査準備 (草刈り)



坪19 重機掘削



坪23 作業風景



坪23 (西から)



坪25・26 調査前の状況



坪30 (南から)



坪31 (南から)



坪32 (南から)



坪39 (南から)



坪43 (南から)



坪45～48 調査前の状況 (西から)



坪48 作業風景



坪51 (南から)



坪57 (南から)



坪58 (南から)



坪59 (南から)



坪65 (南から)



坪68 (南から)



坪68 土坑断面



坪82 (南から)



坪83 (南から)



坪83 作業風景



坪83 ビット掘り下げ



坪84 (南から)



坪87 (南から)



坪90 (南から)



坪91 (南から)



坪92 (南から)



坪98周辺 (北西から)



坪99・100周辺 (南から)



坪99 (南から)



坪102 (南から)



坪103 (南から)



坪105 (南から)



坪107 重機掘削



坪109 (南から)



坪110 (南から)



坪111 土坑 (南西から)



坪113 ビット・土坑



坪114 (南から)



坪115 (南から)



坪116 (南から)



坪134から北側



坪136 (南から)



坪144 (南から)



坪145 (南から)



坪145 土坑検出状況 (南西から)



坪146 (南から)



坪147 (南から)



坪148 (南から)



坪154 (南から)



坪157 (南から)



坪166 (南から)



調査区西端から観音堂遺跡全景



坪169 (南から)



坪172 (南から)



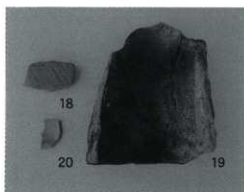
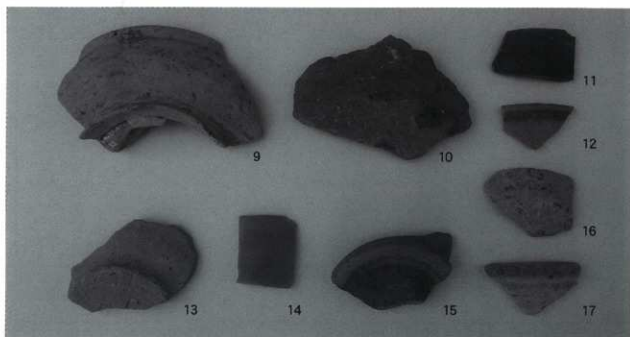
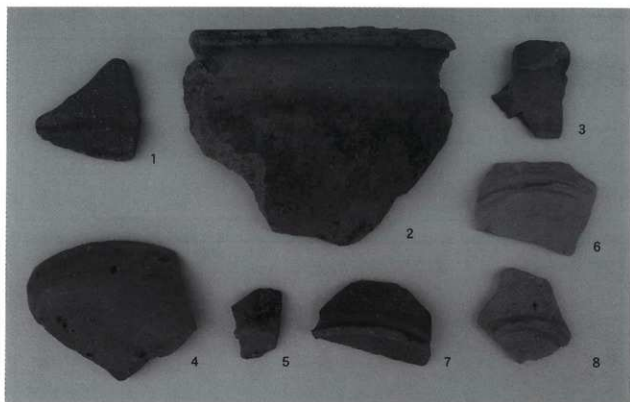
前田遺跡西側全景 (山ヶ谷池から)



坪179 (南から)



坪180 (南から)



報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちようさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	平成27・28年度発掘調査報告
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	15
編著者名	樋口 碧・渡辺 昇
編集機関	福岡町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2018年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	要因
		市町村	遺跡番号					
きたの まんぶち 北野散布地 跡Ⅰ (第3次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町西田原 あびのじのま ばんち 宇西広岡998番地1ほか	28443	410113	34度 56分 38秒	134度 45分 29秒	2015年 7月5日	12	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅰ (第26次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字東田2240番地3、4	28443	410046	34度 56分 46秒	134度 45分 33秒	2015年 8月6日	8	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅱ (第27次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 2896番地	28443	410046	34度 55分 44秒	134度 47分 30秒	2015年 9月15日	7	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅲ (第28次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字川田2940番地6	28443	410046	34度 56分 47秒	134度 45分 36秒	2016年 1月22日	2	確認
あまのうら 観音堂遺跡 跡Ⅰ (第1次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町高岡 あまのうら ばんち 字桜元1102番地3	28443	410169	34度 57分 05秒	134度 45分 42秒	2016年 3月8日	12.5	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅳ (第29次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字大塚2990番地	28443	410046	34度 56分 50秒	134度 45分 28秒	2016年 3月14日	8	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅴ (第30次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字ハツグロ2964番地3ほか	28443	410046	34度 57分 40秒	134度 45分 21秒	2016年 10月3日	8	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅵ (第31次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字中島719番地5	28443	410046	34度 57分 40秒	134度 45分 52秒	2016年 10月14日	9.2	確認
にしたの ありまじり 西田原辻/前遺跡 跡Ⅰ (第3次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町西田原 あびのじのま ばんち 字辻/前1636番地	28443	410136	34度 56分 34秒	134度 45分 27秒	2016年 12月21日	12	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅶ (第32次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字前田2374番地1	28443	410046	34度 57分 30秒	134度 46分 86秒	2017年 1月23日	4	確認
みなたの ありまじり 南田原糸里遺構 跡Ⅷ (第33次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 2252番地5	28443	410046	34度 56分 39秒	134度 45分 33秒	2017年 2月24日	4	確認
にしたの ありまじり 西田原上野田遺跡 跡Ⅰ (第2次)	かんざきてんふくさきちようさほうこく 神崎郡福岡町南田原 あびのじのま ばんち 字上野田1814番地6	28443	410091	34度 56分 34秒	134度 45分 27秒	2017年 3月1日	4	確認

所在地 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m ²	要 因
		市町村	遺跡番号					
雨田京糸山遺構 (第34次)	神崎郡福崎町雨田原 字ハツグロ2984番地	28443	410046	34度 57分 30秒	134度 46分 86秒	2017年 3月15日	4	確認
福崎駅周辺整備	神崎郡福崎町福田	28443		34度 57分 38秒	134度 45分 35秒	2017年 6月28日 9月14日 11月25日	40	試験
高岡・福田地区 球場整備	神崎郡福崎町高岡・ 福田	28443				2017年 9月19日 ～ 2018年 3月1日	684	試験 確認

2018年12月25日 印刷

2018年12月25日 発行

平成27・28年度発掘調査報告
福岡町埋蔵文化財調査報告15

編集・発行 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1
福岡町教育委員会

印刷 クリヤ印刷所



